

令和 7 年度 第 11 回「南城市教育の日」

南城市学力向上実践報告書

子ども一人一人の資質・能力を伸ばす「学び」の
機会と質の保証



南城市
「教育の日」



令和 7 年度



南城市学力向上推進協議会
南城市教育委員会

あ い さ つ

日頃より本市の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本日は「南城市教育の日」として、教育に対する思いを改めて市民の皆様と共有できることを大変嬉しく思います。「南城市教育の日」は、学校教育に対する市民の意識と関心を一層高め、学校・家庭・地域の教育力向上及び充実を図る取組の関連行事として設定しており、市内各小中学校において学習発表会や授業参観等が行われます。

今年度も本市児童生徒の活躍は著しく、様々な分野で素晴らしい成果を上げております。各学校において、先生方のご指導、保護者・地域の皆様の温かいご支援を受け、児童生徒が真っすぐに自分の力を信じ伸ばすことができました。児童生徒のスポーツ・文化面での活躍と先生方の熱意ある教育実践は南城市的誇りです。市として、児童生徒を表彰することでこれまでの努力や成果への賞賛と今後の児童生徒の更なるモチベーションの向上を図っています。今後とも努力を続け共に向上していきましょう。さらなる飛躍を期待しています。

さて、児童生徒の学習面におきましても、児童生徒の学力向上のために市内小中学校が一丸となって文部科学省が掲げる「主体的・対話的で深い学び」を実現した授業を目指し取り組んでおります。現代の教育において、単に知識を詰め込むだけではなく、子どもたちが自ら考え、意欲的に学びを深めていくことが重要です。学びの過程で、子どもたちが自らの興味や課題に対して積極的に取り組む姿勢を育むことが、子どもたちの成長を支えます。また、他者と意見を交わしながら学びを深めることで、問題解決力やコミュニケーション能力を養うことができます。市としましても、「ユニバーサルデザインの視点を入れた授業」「ICTを効果的に活用した授業」と2つの授業改善方針の柱を立て、様々な教職員研修において、先生方と共に授業改善を進めていきます。

結びに、本市の学力向上にご尽力いただいた学校関係者、並びに保護者、地域の皆様に感謝申し上げます。そして、今後とも本市の学力向上推進にご理解とご協力をお願い申し上げまして、あいさつといたします。

令和8年1月25日
南城市教育委員会
教育長 具志堅 兼栄

令和7年度第11回「南城市教育の日」実施要項

南城市教育委員会

1. 趣旨

授業参観等を通して、本市の学校教育に対する市民の意識と関心を一層高め、学校・家庭・地域の教育力の向上及び充実を図る。

2. 期日

令和8年1月25日（日） 学校公開【授業参観・学習発表会等】（特別日課）

3. 場所

小・中学校

4. 主催

南城市教育委員会、各学校運営協議会（コミュニティースクール）

5. 参加者

幼小中学校教職員、保護者、学校関係者、南城市民

6. 内容

- (1) 小・中学校の授業参観等を実施する。 *給食は無し
- (2) 日頃の学力向上推進の実践を学校部会等がホームページにて発表する。
- (3) 年間を通して児童生徒の善行賞、活動賞並びに教職員へ教育実践賞を設け表彰する。ホームページにて発表、表彰は各学校にて校長が行う。

7. 役割分担

児童生徒の表彰及び教職員実践賞等については、各小中学校及び関係団体と連携し教育総務課が担当する。

8. 表彰者の推薦

- (1) 児童生徒等の表彰については、教育・文化・スポーツ活動等の分野において顕著な成績を収めた児童生徒及び他の児童生徒の模範となる功績が認められるものを学校から推薦する。
推薦に関しては「南城市児童生徒等表彰実施要綱」に基づいて行う。
- (2) 教職員の実践賞については、各学校の職員・PTA・地域から評価が高く、かつ実績のあったものを学校から推薦する。推薦に関しては「南城市教育の日」教職員表彰規定に基づいて行う。
 - ① 各幼稚園・小学校・中学校、若干名とする。
 - ② 校長、教頭は対象外とする。
 - ③ 表彰該当者がいない場合、表彰は行わない。

令和7年度南城市学力向上推進要項

南城市学力向上推進協議会

1 南市の教育目標

- (1) 家庭・地域の教育力の向上
- (2) 幼児・児童・生徒一人一人の個性を伸長し、生きる力をはぐくむ
- (3) 生涯学習の理念のもと積極的に学び、成果を活かす市民の育成
- (4) 南市民としてのアイデンティティーの確立

2 南城市学力向上推進目標

- (1)

子ども一人一人の資質・能力を伸ばす「学び」の機会と質の保証	
-------------------------------	--

年度	年度
○令和7年度	全国学力・学習状況調査において、小学校・中学校ともに全国水準まで向上させる。
○令和8年度	
○令和9年度	

- (2) 加えて、本市の具体的達成目標として、以下の5つを達成する。

【南市の達成目標】

- ① 「自分には、よいところがあると思いますか」で「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。
- ② 「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「当てはまる」を50%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。
- ③ 「地域行事に参加していますか」で「よく参加している」を30%以上、「ときどき参加している」を合わせると70%以上を達成する。
- ④ 「市内の社会教育施設（体育館、図書館、自治公民館等）を利用していますか」で「よく利用している」を30%以上、「ときどき利用している」を合わせると70%以上を達成する。
- ⑤ 「お家で読書をしていますか」で「毎日している」を30%以上、「ときどきしている」を合わせると70%以上を達成する。

3 成果指標

- (1) 全国学力・学習状況調査を指標とする。
 - 小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上
 - 平均正答率30%未満児童生徒の割合及び無解答率の減少
- (2) 上記5項目で、児童生徒の達成状況を把握する（小6・中3の児童生徒を対象にアンケートを行う）

4 達成目標実現の手立て

- (1) 沖縄県学力向上主要施策『「自立した学習者」育成プロジェクト』(令和7年度～令和9年度)及び『令和7年度島尻教育の基本方針』と南城市的現状と課題を踏まえ、「確かな学力」の向上をめざし推進する。
- (2) キャリア教育の視点を踏まえ、幼児児童生徒に「学ぶ意義」や「働く意義」を充実させ「学ぶ意欲」を向上させる取組を推進する。
- (3) 全ての幼児児童生徒を尊重し、認め、受け入れ、教師と幼児児童生徒が共に成長していくとする教育を推進(実践)する。
(取組例) 人権意識を高め築くための言語環境の整備
・ていねいで、優しく、正しい言葉があふれる学校(教師が模範となる)
- (4) 主体的・対話的で深い学びに迫る授業を推進(実践)する。
(取組例) ○全国学力・学習状況調査報告書の授業アイディア例を参考にする。
○学びの接続を意識し、幼小中で授業改善を図る。
- (5) 特別支援教育の視点を踏まえ、教室環境の整備・授業(保育)のユニバーサルデザイン等、幼児児童生徒一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の視点に立った学級・学校経営を推進する。
- (6) 教育行政における効果的な支援体制を構築し、教育行政を担う各機関はそれぞれの施策の浸透を図り、連携協力を推進する。
(取組例) ボランティア要請支援、地域コーディネーター活用、公共施設見学、体験学習受け入れ、公立図書館団体貸出等
- (7) 家庭教育支援を進め、家庭教育の充実を図る。
(取組例) 家庭教育講演会の実施、ファミリー読書等

5 具体的取り組み

『「自立した学習者」育成プロジェクト』と関連付け、『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』『「学習基盤としてのICT」の活用』『「指導と評価の一体化」の実現』『「自学自習力」を育む取組の充実』という具体的取り組みを通して、各学校の授業改善・学校改善を推進する。

【行政】

方策1	日常化する 【授業改善】	教育指導課 □学習指導要領を基に、『「自立した学習者」育成プロジェクト』や『「問い合わせ」が生まれる授業サポートガイド』等を活用して、日常の授業を見直し、授業改善を図る。 □教職員協働による授業改善の充実に向けた取組 □各種取組を通して日常的な授業改善を支援する。
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	教育指導課 □インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導を推進する。 ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり

方策 3	支える 【学校支援】	<p>教育指導課</p> <p>□学校訪問を通して、学校と教育委員会との連携強化及び教育活動の充実を図る。</p> <p>□キャリア教育担当者連絡会を開催し、各校のキャリア教育の充実に努める。</p> <p>〔学推：授業改善〕</p> <p>□主体的・対話的で深い学びに迫る授業改善を図る。</p> <p>（学推主任・校内研修主任連絡会／中学校研修の日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査報告書の授業アイディア例を示す。 <p>□アセスメントテストを活用し、到達度の把握、授業改善を図る。</p> <p>標準学力テスト（4月：中学1, 2年生）学力テスト（10月：中学3年生）</p> <p>□沖縄県教育委員会研究指定校の推奨</p> <p>〔学推：幼小、小中連携〕※幼：保育所、幼稚園、こども園を含む</p> <p>□幼児教育と小学校、中学校の育ちをつなぐ。</p> <p>〔学推：幼児教育〕</p> <p>□市内統一テーマを基にした5園研修の充実を図る。</p> <p>〔学推：特別支援教育〕</p> <p>□認知トレーニングの実施、MIM教材の活用を広げる。</p> <p>□SST（ソーシャルスキルトレーニング）及びSGE（構成的グループエンカウンター）等の研修を行い、授業や学級経営を支援する。</p> <p>□Q-Uを活用したアセスメントを支援する。</p> <p>〔学推：外国語教育〕</p> <p>□「南城市小中外国语研修会」において、講師を招聘し、小・中連携した外国語科における指導と評価、授業づくりを支援する。</p> <p>〔学推：ICT活用〕</p> <p>□GIGAスクール構想（1人1台PC配布）におけるPC活用を支援する。</p> <p>〔学推：不登校・登校渋り改善〕</p> <p>□各学校の生徒指導、教育相談担当とハート教室の連携・協働</p> <p>〔学推：学校図書館充実〕</p> <p>□「読書センター」「情報センター」「学習センター」としての役割を担い、情報リテラシーの充実を図るとともに、司書教諭が連携協働し、読書を楽しむ児童・生徒の育成を図る。</p> <p>□授業カリキュラムにそった図書館利用計画を作成および授業支援体制をとり、学校教育の支援展開に寄与する。</p> <p>教育総務課</p> <p>□「子どもとしっかりと向き合い、質の高い授業、教育活動ができる働き方」をめざし、学校業務改善を推進する。</p> <p>生涯学習課</p> <p>□スポーツ少年団や部活動の終了時刻厳守等家庭学習時間の確保と定期的な休養を確保する取組を推進する。</p> <p>□リーダー育成キャンプ、ESLキャンプ、海外短期留学、中国国際交流事業を実施する。</p>
方策	見通す	<p>教育指導課</p> <p>□学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める。</p>

4	【カリキュラム・マネジメント】	<input type="checkbox"/> 学校評価と関連付けたカリキュラムマネジメントの確立
方策5	つなぐ 【学校・地域連携】	教育指導課・生涯学習課 <input type="checkbox"/> 幼小連携と幼児教育の充実を推進する。 <input type="checkbox"/> 幼小中連携の取組を通して中学校区での児童生徒の育成 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有し取り組む。 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動を充実させ、各学校の「地域教育資源」の活用を推進する。 <input type="checkbox"/> 学校における体験活動を推進するため、様々な機関との交流活動の取組を推進する。

【公私連携型認定こども園・公立認定こども園・幼稚園】

方策1	日常化する 【保育の充実】	<input type="checkbox"/> 「遊びこみ」を通して「10の姿」を育む。 <input type="checkbox"/> 幼児一人一人の行動理解と予想に基づき、計画的に環境を構成する。 <input type="checkbox"/> 自ら興味・関心を抱いたことに存分に取り組む環境と時間を確保する。
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	<input type="checkbox"/> 遊びを通して心情・意欲・態度を育成されるように指導する。 <input type="checkbox"/> 生活リズムカードを活用して、基本的な生活習慣を確立し、自立心を育む。 <input type="checkbox"/> 幼児教育関係者研修会と園内研修の充実を通して、資質の向上と各園の課題解決に努める。 <input type="checkbox"/> 市内統一テーマを基に5園研修を行い保育の充実を図る。 <input type="checkbox"/> インクルーシブ保育の視点での園・学級経営の充実及び幼児一人一人に応じた指導に努める。
方策3	支える 【発達の支援】	<input type="checkbox"/> 互いを受け入れられる温かい人間関係の構築を図る。 <input type="checkbox"/> 人の役に立つ喜びを味わう活動を行うとともに自分のことは自分でできるように指導を工夫する。 <input type="checkbox"/> 具体的に「支える」「認める」こときっかけや、幼児が考えて行動できるようなこときっかけをすることにより、幼児に自己存在感を実感させ自己肯定感・自己有用感を育む。
方策4	見通す 【学校組織マネジメント】	<input type="checkbox"/> 保育カンファレンスを実施し、協働でドキュメンテーションを作成する。 <input type="checkbox"/> 学力向上年間サイクルの活用 <input type="checkbox"/> アプローチカリキュラムの実践 <input type="checkbox"/> 教育目標を明確にし、PDCAサイクルを通して学校評価を行う。 <input type="checkbox"/> ドキュメンテーションを適宜作成する。
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	<input type="checkbox"/> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、接続期カリキュラムを協働で見直し小学校教育との円滑な接続を図る。【幼小連携】 <input type="checkbox"/> 幼児教育センター・公立認定こども園を結節点として、就学前施設間の連携を図るとともに円滑な接続をめざす。

【小中学校】

方策1	日常化する 【質的授業改善】	<ul style="list-style-type: none"> □『「自立した学習者」育成プロジェクト』に基づく授業改善、他者と関わりながら問題解決に向かい「問い合わせ」が生まれる授業をめざす。 □学ぶ意義・身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫・改善を行う。(「指導の個別化」「学習の個性化」) □ICTや視聴覚機器を効果的に活用したわかる授業の推進を図る。 □学年会や教科会、校内研修等を充実させる。
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	<ul style="list-style-type: none"> □「全国学力・学習状況調査」や沖縄県学力定着状況調査「学びのたしかめ」(県Webシステム)、沖縄県学力到達度調査を活用した実力調査等の結果を分析し、「授業における基本事項」や「問い合わせが生まれる授業サポートガイド」等を活用して組織的に授業改善に取り組む。(本市実施標準学力テスト・中学3年生学力調査の結果も活用) □学力向上マネジメントの推進 □教師が模範となった人権意識を高め築くための言語環境の整備・推進を図る。 □学校経営ビジョンを共有した取組の推進 □管理職による日々の授業観察とフィードバックの取組を推進する。 □インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり
方策3	支える 【発達の支援】	<ul style="list-style-type: none"> □豊かな心や確かな学力の育成に向けた取組を、特別支援教育の視点で再確認し、児童生徒一人一人を大切にする教育を推進する。 □児童生徒を適宜、具体的に「支える」「認める」ことばかけや、児童生徒が考えて行動できるようなことばかけをすることにより児童生徒に自己存在感を実感させ自己肯定感・自己有用感を育む。 □学習支援員・特別支援教育支援員を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。 □将来の夢や希望を形づくる学習で「なりたい自分」を広げ、様々な知識や技能を身につけ「なれる自分」を広げる。 □「キャリア・パスポート」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする。 ・「キャリア・パスポート」に学びのプロセスや自己評価等を記述することを通して、小中高12年間の学びの履歴をつなぎ、自立した社会人・職業人の育成を図る。
方策4	見通す 【学校組織マネジメント】	<ul style="list-style-type: none"> □学力向上年間サイクルの活用 □カリキュラム・マネジメントの実施 □児童・生徒と教職員が学習の履歴や、年間を見通せる掲示物を作成する。
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	<ul style="list-style-type: none"> □幼小中が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。 □スタートカリキュラムを工夫し、幼児教育から小学校教育への円滑な移行を図る。 □小中相互の授業参観や協働での授業実践を推進する。

	<ul style="list-style-type: none"> □地域教育資源や本物に触れる活動を通した取組で「学ぶ意義」や「働く意義」「地域貢献への芽生え」を醸成する。 □お仕事調査隊、職場見学や職場体験学習を教科等の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。 □コミュニティ・スクールの取り組みで学校とともに地域と課題や目標を共有し、子どもを育む。 □地域学校協働本部事業（活動）の充実
--	--

【家庭・地域】

方策1	日常化する 【家庭教育の充実】	<p>周知・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> □子どもに「働くこと」「勉強すること」の関係や将来の夢や希望について子どもと語り合う。（対話の充実） □家族の一員として役割を与えたり、お手伝いをさせたりすることで家族の役に立つことの喜びを味わわせる。 □あいさつや返事ができるようにする。（規範意識・マナー向上）
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	<p>周知・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> □幼児児童の生活リズム向上を図るため、「食べて・動いて・よく寝よう」運動に取り組む。（生活リズムの確立） □家庭における読書活動を充実させ、言語における能力を培うとともに、豊かな心を育む。（第3日曜日のファミリー読書の実施）（読書活動の充実） □「地域の子は、地域で守り育てる」4つの共通実践の推進を図る。 (大人版G0家運動、親子、地域でコミュニケーションを持とう、大人が変われば子どもも変わる運動、未成年者の飲酒・喫煙防止の取組)
方策3	支える 【家庭教育の支援】	<ul style="list-style-type: none"> □家庭教育の充実を図るために、「家～なれ～運動」「G0家運動」に取り組む。 □県や市が主催するプログラムへ参加し家庭教育の充実に役立てる。 □幼児児童生徒が子ども会・スポーツ少年団等の地域活動を通して自主性や社会性を育成する。 □地域では、幼児児童生徒の登下校時や帰宅時の安全安心を見守る活動を展開し家庭教育を支援する。
方策4	見通す 【組織マネジメント】	<ul style="list-style-type: none"> □学校と目指す児童生徒像を共有し、「社会に開かれた教育課程」実現への素地を育む。 □コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有する。
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	<ul style="list-style-type: none"> □コミュニティ・スクールの取り組みで学校とともに子どもを育む。 □学校と連携し、主体となって「家庭学習」を充実させる。（家庭学習の習慣化） □地域の伝統文化行事に関する活動に積極的に参加させ、世代間交流でコミュニケーション能力を育成する。（体験活動と対話の充実）

令和7年度「南城市教育の日」児童生徒等表彰・教育委員会表彰一覧表

学校名	区分	活動等
佐敷中学校	教育・文化活動	第35回児童生徒平和のメッセージ 詩部門中学生の部 最優秀賞
佐敷中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 2級合格
佐敷中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 2級合格
佐敷中学校	他の児童生徒の模範	実用技能英語検定 2級合格
佐敷中学校	スポーツ活動	第69回沖縄県中学校新人ソフトテニス大会 準優勝
佐敷中学校	スポーツ活動	第21回日本少年野球ミズノ旗争奪戦九州選抜大会 準優勝(中学硬式野球)
佐敷中学校	スポーツ活動	・第6回沖縄県U15バスケットボール選手権大会 優勝 (Jr. ウィンターカップ 2025-26 第 6 回全国U15バスケットボール選手権大会(全国大会)出場権獲得)
佐敷中学校	スポーツ活動	九州クラブU15バスケットボールゲームズ2025 準優勝
佐敷中学校	教育・文化活動	第10回おきなわ伝統芸能「若衆芸術祭」若衆優秀賞
知念中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定準一級合格
知念中学校	スポーツ活動	第67回沖縄県中学校卓球競技大会第3位(九州大会出場) 令和7年度九州中学校卓球競技大会12位(全国大会出場)
知念中学校	スポーツ活動	第56回日本少年野球選手権沖縄予選大会 [第2回エナジック杯沖縄県少年野球大会]全国大会出場
知念中学校	スポーツ活動	第56回日本少年野球選手権沖縄予選大会 [第2回エナジック杯沖縄県少年野球大会]全国大会出場
知念中学校	スポーツ活動	2025年度沖縄県Bユース・クラブバスケットボール夏季大会優勝 (全国大会出場)
知念中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定二級合格
知念中学校	スポーツ活動	第45回沖縄県中学校夏季陸上競技大会第2位(九州大会出場)
知念中学校	スポーツ活動	第33回ヤングリーグ選手権大会沖縄支部予選大会 準優勝
知念中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定二級合格
知念中学校	教育・文化活動	第15回沖縄県中学校スケッチコンテスト銀賞
大里中学校	スポーツ活動	令和7年度第2回沖縄県ヤングクラブバレー大会 優勝
大里中学校	スポーツ活動	OFA第31回沖縄県U-15フットサル選手権大会 準優勝
大里中学校	スポーツ活動	KYFA第37回九州なでしこサッカー大会沖縄県予選 準優勝
大里中学校	スポーツ活動	令和7年度第37回ビーチバレーOKINAWA2025大会 優勝
大里中学校	スポーツ活動	SYM・大和工業カップOFA第59回沖縄県U-15サッカー選手権大会優勝
大里中学校	スポーツ活動	SYM・大和工業カップOFA第59回沖縄県U-15サッカー選手権大会優勝
大里中学校	スポーツ活動	2025年度沖縄県Bユース・クラブバスケットボール夏季大会兼第14回U15クラブバスケットボールゲームス沖縄県予選会 優勝
大里中学校	スポーツ活動	第40回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 全国大会出場

大里中学校	スポーツ活動	SYM・大和工業カップOFA第59回沖縄県U-15サッカー選手権大会優勝
大里中学校	教育・文化活動	第22回全沖縄暗算競技大会 優秀賞
大里中学校	スポーツ活動	第39回かさぎ杯ジュニア新体操競技大会 団体 沖縄県代表
大里中学校	スポーツ活動	第45回九州ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 個人形 第2位
大里中学校	スポーツ活動	第32回OTVカップ争奪総合体操競技大会新体操中学生女子団体第1位
大里中学校	スポーツ活動	第21回都道府県対抗全日本中学生女子ソフトボール大会 出場（沖縄県選抜として全国大会派遣）
大里中学校	教育・文化活動	第73回全琉小・中・高校图画作文書道コンクール散文の部(創作文)最優秀賞
大里中学校	スポーツ活動	第57回春季短水路年齢別選手権水泳競技大会第57回西日本年齢別選手権水泳競技大会沖縄県予選会 男子200m自由形 第2位
大里中学校	スポーツ活動	2025年度沖縄県U15 Bユース・クラブ バスケットボール春季大会優勝
大里中学校	スポーツ活動	第13回ヤングリーグジュニア選手権大会沖縄支部予選大会 団体優勝
大里中学校	教育・文化活動	第66回動物愛護の作文コンテスト 岡本和真ハピアニ賞
大里中学校	スポーツ活動	第13回ヤングリーグジュニア選手権大会沖縄支部予選大会 団体優勝
大里中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 2級取得
大里中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 2級取得
大里中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 2級取得
大里中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 2級取得
大里中学校	スポーツ活動	第33回読谷教育長旗争奪沖縄県中学校ソフトボール大会 準優勝
大里中学校	教育・文化活動	第16回琉球新報国際バレエコンクール 沖縄県知事賞
大里中学校	スポーツ活動	WKBL国際ユースバスケットボール選手権2025(U15) 優勝
大里中学校	スポーツ活動	WKBL国際ユースバスケットボール選手権2025(U15) 優勝
大里中学校	スポーツ活動	WKBL国際ユースバスケットボール選手権2025(U15) 優勝
玉城中学校	スポーツ活動	第13回ヤングリーグジュニア選手権大会沖縄支部予選大会 優勝
玉城中学校	スポーツ活動	第13回ヤングリーグジュニア選手権大会沖縄支部予選大会 優勝
玉城中学校	スポーツ活動	第45回沖縄県中学校夏季陸上競技大会 男共通400m 第3位
玉城中学校	スポーツ活動	OFA第20回沖縄県クラブユースU-15サッカー選手権大会 3位
玉城中学校	スポーツ活動	第44回全日本ジュニアバドミントン選手権大会沖縄県代表選考会 新人の部男子シングルス3位
玉城中学校	スポーツ活動	第13回ヤングリーグジュニア選手権大会沖縄支部予選大会 優勝
玉城中学校	スポーツ活動	第13回ヤングリーグジュニア選手権大会沖縄支部予選大会 優勝
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 2級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 準2級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 2級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 準2級合格

玉城中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 2級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	日本漢字能力検定 準2級合格
玉城中学校	教育・文化活動	高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会沖縄県大会 最優秀賞
玉城中学校	スポーツ活動	第35回知花哲杯沖縄県中学校ソフトテニス大会 優勝
玉城中学校	スポーツ活動	第二十三回オープントーナメントウェイト制極真沖縄空手道選手権大会 中学二年生男子・重量級 二位
玉城中学校	教育・文化活動	「沖縄ドリームプロジェクトアワード 2025」受賞 実用英語技能検定 準2級合格
玉城中学校	スポーツ活動	第48回沖縄県中学校新人シングルスバドミントン選手権大会 Bクラスの部 優勝
玉城中学校	スポーツ活動	第47回九州中学校陸上競技大会 男子共通800m 第5位
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 準1級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 2級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 2級合格
玉城中学校	他の児童生徒の模範	実用英語技能検定 準2級合格
玉城中学校	スポーツ活動	第49回男子 沖縄県中学校駅伝競走大会 第3区 第3位
玉城中学校	教育・文化活動	第15回沖縄ふるさとづくり写真コンクール 優秀賞
玉城中学校	教育・文化活動	第73回全琉小・中・高校図画作文書道コンクール 図画の部 優秀賞
玉城中学校	教育・文化活動	第73回全琉小・中・高校図画作文書道コンクール 書道の部 優秀賞
玉城中学校	スポーツ活動	第53回 當山堅一杯沖縄県中学校ソフトテニス大会 男子団体優勝
佐敷小学校	教育・文化活動	第20回琉球新報学校新聞コンクール 金賞
馬天小学校	スポーツ活動	第31回おきでん旗争奪 第152回沖縄県学童軟式野球大会 準優勝
馬天小学校	スポーツ活動	世界硬式空手道連盟(WKKF) 第21回世界硬式空手道選手権大会 組手優勝 形準優勝
馬天小学校	スポーツ活動	世界硬式空手道連盟(WKKF) 第21回世界硬式空手道選手権大会 組手優勝 形4位
大里南小学校	他の児童生徒の模範	運営委員会(児童会役員)としての企画・運営
船越小学校	スポーツ活動	第21回世界硬式空手道選手権大会 小学生男子組手の部3位
船越小学校	スポーツ活動	第10回沖縄空手道新人戦 小2男子の部JAC選抜クラス重量級優勝
船越小学校	スポーツ活動	第10回沖縄空手道新人戦 小3男子の部JAC選抜クラス重量級優勝
船越小学校	スポーツ活動	第2回全日本型選抜大会沖縄大会 優勝
玉城小学校	教育・文化活動	科学作品展に出品し最優秀などを受賞
玉城小学校	スポーツ活動	第21回世界硬式空手道選手権大会組手女子 12-13歳の部 2位
百名小学校	スポーツ活動	第21回世界硬式空手道選手権大会 組手女子 10-11歳の部 優勝

百名小学校	スポーツ活動	第21回世界硬式空手道選手権大会 組手女子 8-9歳の部 2位
百名小学校	スポーツ活動	第21回世界硬式空手道選手権大会 形 8-9歳の部 5級以下 優勝
知念小学校	教育・文化活動	第10回おきなわ伝統芸能「若衆芸術祭」 沖縄県知事賞受賞
知念小学校	他の児相生徒の模範	南城市知念志喜屋の海岸清掃を毎週月曜日(約4年間)に頑張っている

※児童生徒表彰については、氏名を省略します。

令和7年度「南城市教育の日」教職員表彰

学校名	氏名	活動等
玉城中学校	山内 えりか	教育相談担当、道徳推進教師、初任者指導教諭等の経験を活かして学校運営に貢献
玉城中学校	古謝 綾乃	学年主任、校内研修担当、学力向上推進担当等の経験を活かして学校運営に貢献
大里中学校	中山 瞳子	教科指導、生徒理解、自己研鑽において秀でている
知念中学校	國吉 勇多	生徒指導、学年主任、部活動指導において秀でている
百名小学校	仲宗根 徹	教務主任、研究主任として学校全体の教育力向上と業務改善に貢献
船越小学校	丹野 千草	音楽専科としての幅広い教育活動、学力向上推進担当等での貢献

令和7年度「南城市教育の日」教育委員会表彰

知念 夏奈子	感謝状	教育委員会委員
安谷屋 春空	表彰状	高校野球夏の甲子園優勝(沖縄尚学高等学校)
渡口 進一	感謝状	船越小学校歯科医
(故)友寄 景淳	感謝状	大里北小学校・百名小学校歯科医
(故)伊集 俊雄	感謝状	久高幼稚園・久高小中学校・知念小学校及び知念中学校薬剤師
前城 和代	感謝状	知念小学校スクールガード
吉嶺 美智子	感謝状	知念小学校スクールガード
(故)吉浜 忍	感謝状	市史「南城市的沖縄戦」編集委員

1 実践事項

「新学習指導要領に即した外国語教育」
～「言語活動を通して学ぶ」授業改善を通して～

2 実践内容

(1) 目的

「中学校研修の日」に自主研修を行うとともに、講話や演習を通して、学習指導要領で求められている言語活動や評価等について学び、小中連携で外国語の授業づくりの充実に資する。

(2) 計画

- ① 校区内授業参観（小中連携）中学校研修の日
- ② 中学校研修の日
- ③ オンライン英会話（スパトレ株式会社）

3 実践



【小中連携校区内授業参観】

中学校校区内の小学校が外国語授業を公開し、中学校英語教諭が授業参観し、参観後は一緒に授業研究会を行った。

小学校は、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指し、授業づくりを行っている。



小学校での学びを中学校でどう繋いでいくのか、また、中学校で「言語活動を通して」学びを深めるためには小学校でどのような授業を行っていくことが大切かを授業研究会で意見を交わすことで、お互いの校種の特性や指導方法を理解することができ、互いを意識した授業の工夫改善に繋がった。

【中学校研修の日】



中学校研修の日は、市内中学校教諭が教科別に一同に集まり、授業改善について話し合うなど、年に3回教科会を開き研修を行っている。

今年度、英語科においては、文部科学省「リーディング DX スクール事業」指定校である嘉手納町立嘉手納中学校から講師をお招きして「ICT を効果的に活用した授業」「生成 AI を活用した授業」について研修を行い、スキルアップを図った。

【オンライン英会話】

各中学校において全学年対象に年2回行っている。一人一台端末を活用して、オンラインで生徒と外国人講師が1対1でテーマに沿ってコミュニケーションを図る。スパトレ株式会社が、実施する生徒の人数分の外国人講師を手配して、生徒は一人一人異なる外国人講師とコミュニケーションを行い、日頃の学習の成果を試す。

4 成果

- 校区内授業参観（小中連携）を通して、小中学校の教諭がお互いの学習内容や授業展開を知ることができ、それぞれの発達段階に応じた「主体的・対話的で深い学び」のある授業について話し合うことで、小中の繋がりを意識した授業改善を図ることができた。また、言語活動を通して学びを深めることを意識して授業の組み立てを考えることを進めることができた。
- 中学校英語科では、文部科学省「リーディング DX スクール事業」指定校である嘉手納中学校から講師をお招きして、先進的に取り組んでいる「授業の中での効果的な ICT 活用」を講話だけでなく、一人一台端末を活用して先生方に実際に演習形式で研修を行ったことで、に日々の授業に活用できるような学びとなった。
- オンライン英会話においては、生徒が外国人講師と1対1でコミュニケーションを行い、日頃の学習の成果を発揮し会話を続け、英語で思いを伝え合う楽しさを感じたことで、外国語（英語）に関する興味・関心が高まった。

5 課題

- 小中連携においては、今後も継続してお互いの授業について意見交換ができる場を設定し、じっくり授業づくりについてお互いの考えを伝え合い、連携を深めていきたい。

1 実践事項

学校教育を担う教員の資質能力向上を目指して
～教職員研修を通して～

2 実践内容

(1) 目的

様々な教育課題に対応した教職員研修を通して、教職員が教育課題に対応する力を身に付け、学力向上の根幹である「授業改善」に日々努めることで、教員の資質能力向上を図り、学校教育の充実に資する。

(2) 計画

- ① 教職員研修会（全職員対象）
- ② 教職員研修会（ICTの効果的な活用）
- ③ 幼こ小中連携授業参観

3 実践

【教職員研修会】



「南城市内の幼こ小中学校教職員が講演会等の研修を通して、教育のユニバーサルデザインの視点から、一人一人を大切にする教育の共通理解を図ることをねらいとし、市内教職員全員を対象にした教職員研修会を南城市文化センター・シュガーホールで開催した。講師として元日野市特別支援教育総合コーディネーターの宮崎氏をお招きして、「通常学級における特別支援教育」と題しご講演いただいた。誰一人取り残さないような授業づくりや学級づくり等についてご教授いただき、参加者である教職員の皆さんに問い合わせながら、時には隣に座っている人と意見を交換したり、時には近くに座っている人同士でグループを作り少人数で考えさせたりと、教職員の先生方と対話しながら進めてください、講師の宮崎氏と共に考える演習形式の研修となった。

【教職員研修会（ICTの効果的な活用）】

市の授業改善の方針の一つの柱である「ICTを効果的に活用した授業」を進めるべく、授業の中でのICTの効果的な活用に係る教職員研修会を全2回開催した。日頃からICTを効果的に活用して授業を進めている市内小学校教諭の上原氏を講師として、県の施策で示されている「学習基盤としてのICT」の活用を目指し研修を行った。研修では、「インプットやアウトプットの場面でのドキュメントやプレゼンの活用」「共同編集の場面で



活用することで協働的な学びを深める」「ふりかえりでの活用で自身や他者の学びの履歴から新たな学びへ向かう」という3つの視点でのICT活用について、先生方に実際クロームブックを操作し体験しながら、演習形式で行った。

【幼小中連携授業参観】

幼小中連携での授業参観を通して、それぞれの発達段階に応じた「主体的・対話的で深い学び」について研修し、学びや育ちの接続を意識した授業づくりに資することをねらいとした幼小中連携授業参観を、10月9日に南城市4地区で行った。

今年度は、小学校4校が公開授業を行い、幼小中の教諭が一堂に会して小学校4校の授業参観を行った。

「各学年の発達段階に沿った主体的・対話的で深い学びの授業」という視点を中心に「学びの接続」「探究的な学びの設定」「ICTの活用」といった視点も合わせて授業参観及び授業後の研究会を行った。公開授業では、子どもたちが主体的・対話的に取り組む姿が多く見られ、深い学びとなるための教師の発問の工夫があり参観する側にとって多くの学びのある機会となった。

授業後の研究会では、授業に対して自分の日々の授業と比較しながら意見を述べたり、校種の異なる中学校の授業展開と比較しながら感じたことを話したりして意見交換を行った。本音で語り合い、お互いの学びを理解することができ、学習指導要領にうたわれている小中を貫く「主体的・対話的で深い学びのある授業」を共に模索する有意義な研修となった。



4 成果

- 教職員研修（全職員対象）を通して、市内全教職員で、「誰一人取り残さない」を合言葉にユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり、学級づくりについての理解を深め共有することができた。
- 「ICTを効果的に活用した授業」に係る研修会を通して、市として3つの視点での活用方法を示したことで、取り組みの方向性が明確になり、市内小中学校全体で授業でのICT活用を進めることができた。
- 幼小中連携授業参観において、小学校の授業を小中の教職員で共に参観し意見を交わすことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現した授業について、学びの繋がりや連携の大切さに気づくことができた。

5 課題

- 学校現場の状況を踏まえ、現場の先生方が研修内容を自分で捉えることができ、学びたいことが学べるような主体的な研修になるように、教育委員会は企画していく必要がある。

【作成要領】

南城市教育委員会生涯学習課

連絡先 TEL : 098-917-5369

E メール : gushiken00587@city.nanjo.lg.jp

1 実践事項

遊びながら、学べて、地域のためになるプログラム

タイトル：「 子ども・若者未来会議 」

2 実践内容

AI や SNS 活用、動画撮影を学んだり「自分の可能性」「未来」を考えるプログラム。学んだことを活かし、学生主体のイベントを企画・発表し、地域と繋がる体験を提供します。

4回に渡るワークショップを実施し、子ども達の目線から南城市的魅力を発信する活動を行いました。最終的には南城市祭りでのブース出展を目標にグループごとにブース制作を行いました。

1回目 AI ツールと動画編集

2回目地域フィールド探索（Nバスツアー）

3回目南城市まつり企画（ブースの立案）

4回目ブースの最終調整



3 成果

好きなことへの気づき、自分自身の成長

初めは、知らない人同士でのグループ活動でしたが、回を重ねるごとにお互いの役割分担を行いそれぞれの得意な部分を発揮しながら、作品を完成させてきました。

徐々に緊張も解けていくにつれて自分の思っていることを話せる環境となり、ワークショップ内での「これできた！」や「これが好き！」という言葉が聞こえてくるようになりました。

南城市祭りでの出展では、多くの来場者がブースに立ち寄り、子ども達にとって自信と大きな成功体験をもたらすことができました。

4 課題

地域への還元

子ども・若者未来会議の工程を終了した後の持続性を持たせる仕組みを構築していく必要があります。これで終わりでなく今回の活動をきっかけに参加した子ども達が、継続して地域行事等に参加し、運営を行っていくための第一歩になればと考えています。

参加者の年齢層においても中高生以上の参加促進を目標としており、どのようにアプローチしていくかが課題となっております。

②令和7年度 夏休み補充学習

実践内容

南城市内の各小中学校において、地域ボランティアの協力のもと夏休み中の補充学習を実施しました。一般の方や学生を含む幅広い地域の人々が参加し、運営面では公式LINE「なんじいボランティア」を活用して効率的な募集を行いました。地域コーディネーターが中心となり、各校の希望（場所・時間・科目等）に合わせた調整を行った結果、16名のボランティアが参加し、地域ネットワークを活かしたスムーズな運営が実現しました。今後もSNSの活用や地域連携を基盤とし、中学生の受験対策支援など、活動の拡充に向けた計画を推進しています。



3 成果

地域と学校の連携強化

地域コーディネーターが各学校と密に連携し、現場の要望に合った学習支援ができたことが大きな成果です。この活動を通じて地域と学校の距離が縮まり、学校の教育活動に対する地域の理解や協力も得やすくなりました。

4 課題

地域と学校の連携の持続性

この取り組みを長く続けていくためには、しっかりと連携の仕組みづくりが必要です。定期的に意見交換をしたり、活動の様子を報告し合ったりする場を設けて、相互理解を深めながら、無理なく協力し合える体制を作っていくことが今後の課題です。

学校名 南城市立玉城中学校	連絡先 : 098-948-7105 E メール : tamachu-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項

「特色ある取組」

タイトル「自立した学習者の育成を目指して」

～ICT 機器を活用した授業改善と学習計画表の活用を通して～

本校の学校教育目標「自ら学び自ら考え 心豊かに実践する たくましい生徒」

本年度の重点目標

(1) めざす授業像の共有「ICT 機器を活用した授業」

主体的・対話的な深い学びを目指し、他者と関わりながら、自立した学習者の育成を目指した授業改善ができる研究を進める。

(2) 教材研修の充実「多様な教材研究の方法を共有することで、授業改善の推進力を高める」

教材研究ツールの活用、各種資料の分析・活用を進めると共に、学年会・教科会、授業研究会の充実や校種間の連携などの組織的な取組の充実を図ることにより、実践を通した研究に努め、生徒の変容をはっきり捉えられるような研修を進める。

(3) 学力向上マネジメントの推進「マネジメントを機能させ、全校体制で取組を推進する」

全職員で学力向上の具体的な到達目標を共有し、取組を徹底、連動していくことで、実践意欲を高め、授業改善をし、一人一人の生徒の心に届き、変容および学力の向上に至る授業改善を図る。

(4) 学習を支える力の育成および集団づくり・自主性を高める取組の充実

学校課題に対する共通実践事項の共有化、確実な実践、振り返りにより、学習を支える力を育成すると共に、支持的風土のある学級経営、生徒指導の3機能を生かした授業づくり、学びに向かう集団作りを進める学級活動および生徒会活動の充実を図る。

(5) 校外研修への積極的な参加により、テーマ研究・研修等が一層深められるようにする。

(6) 電子黒板・PC 等の教育機器などを積極的に活用し、指導法の工夫・改善に努める。

2 実践内容

「予算活用したことに係る取組」

(1) 特別支援教育の充実

特別な支援が必要な生徒や集団の中で困り感を抱いている生徒がいる中で、合意形成を基にした合理的配慮を行うために教材を活用した活動を行うために活用した。また、特別支援の自立活動だけでなく、通級教室における活動において、生徒個々の特性に応じた支援を行うために活用した。

①高次脳機能バランサー

高次脳機能は互いに影響しあっており、脳機能のバランスを維持するには、多角的なアプローチが必要である。手軽なトレーニングでこれらを総合的に改善できるように活用した。

(図1) 生徒は具体的に数値で自身の成長を確認でき、意欲的に活動している。

②「こころかるた」「きみのストレスを発見せよ」「ウボンゴ」

「こころかるた」には絵札がなく、全てのカードに様々な質問が書いてある。質問を読んで、自分の感じたことや考えを答えるカード遊びを通して自立活動をする。(図2)

「きみのストレスを発見せよ」は、ストレスマネジメントの4つのスキル（じぶんのストレス発見・じぶんのストレス反応発見・じぶんのコーピング発見・ひとりでストレスマネジメント）をゲームを通して体験できる。(図3)

「ウボンゴ」はスワヒリ語で「脳」という意味を持つゲームで、脳トレの”パズルゲーム”に、みんなで楽しめる”ボードゲーム”が合わさったパズルボードゲームである。平面で表された図を立体に組み合わせていく活動で空間認知能力を鍛える。(図4)

③スクールタイマー

時間管理能力の向上、集中力アップ、授業や活動の効率化で、生徒の時間感覚を養い、メリハリのある学習・活動を促すことを目的に活用した。

今回、特別支援教室と理科室、美術室に設置した。(図5)

④トレース台

絵が苦手な生徒や特別に支援が必要な生徒に対して、下絵を活用して絵を楽しく描くためのサポート機材である。美術の授業や特別支援の自立活動として活用する。課題の難易度を下げることにより意欲的に活動するようになった。(図6)

(2) 進路指導の充実

進路に関する情報資料の収集に努め、進路情報の効果的な活用を図る。また、生徒との好ましい人間関係作りに努め、進路コーナーの設置による情報提供や進路相談を積極的に進める。

①ファイル17冊

各高校の進路情報をファイルで分類して生徒が閲覧しやすくした。生徒は自由に閲覧している。(図7) 三者面談時には、保護者も閲覧している様子があった。

また、進路指導における上級学級調べにも効果的に活用できている。

②令和8年度高校入試過去問題集(5冊)・5科の予想問題・高校入試5科一問一答

3学年の各教室に高校入試過去問題集や予想問題、一問一答問題集を生徒が主体的に活用できるように設置した。生徒は休み時間等に問題集の内容を確認して、級友と共に問題に挑戦している。(図8) 生徒は過去問を通して各自の不得意分野や出題の傾向を確認して、自分自身の学習計画作成に活用している。

③高校入試合格ガイド面接試験

3学年の教室及び特別支援教室(3年生が在籍している教室)に設置した。県立高校だけでなく、私立や通信制の学校においても面接が実施されている。面接指導を通して生徒の目的意識や将来の目標などを再認識させる機会となっている。また、生徒同士で面接の練習やシミュレーションを行っている。(図9)

(3) 学力向上推進に向けた取組

学力向上の取組の重点を「授業改善」におき、子どもたちにこれから必要とされる資質・能力を育成し、確かな学力の向上を図る。

①ホワイトボード（学習支援教室に設置）

地域学習支援ボランティアによる学習支援を行っている教室にホワイトボードを設置した。

ボランティアが学習内容の説明の際に活用している。（学習支援ボランティアからの要望）

（図 10）補充学習に参加している生徒は、個別に指導してもらえるため支援をしてもらえる時間を有意義に活用している。また、「分かる」ことを実感したことで普段の授業においても意欲的に学習に望むようになる生徒も見られる。

②教科書（国・社・数・理・音・美・技家）

教師用の教科書が指導書に付属していなかったため購入した。授業改善、学習指導方法の工夫改善を目指し、教材研究で活用している。

③ラジカセ（CD-R/RW ディスクの再生に対応した CD ラジカセ）

英語のリスニング指導やリスニングテストにおいて活用している。教師が編集したリスニング問題を再生できるラジカセが必要である。（図 11）

④研究授業の視察のための交通費

嘉手納中学校の令和 7 年度文部科学省「リーディング DX スクール/生成 AI パイロット校」の公開授業及び公開研究会に職員（1 名）が参加した。ICT 機器を活用した授業改善を進めている。主体的・対話的な深い学びを目指し、他者と関わりながら、自立した学習者の育成を目指した授業改善ができる研究を進めるうえで、有意義な研究授業及び研究発表だった。今後、ICT の活用に AI を活用を含めた取組を進めるために、職員で情報を共有した。

⑤学習発表会の展示物を掲示するための模造紙等

1 月に行われる南城市教育の日に学習発表を実施している。各学年ごとにこれまで学習した成果を掲示して発表している。国語や社会、美術、総合など多くの作品を展示している。（図 12）生徒の作品を展示するだけでなく、見学の時間を設けて振り返りを行うことで、自己肯定感を高め、主体的に学習に取り組むことになっている。

3 説明資料

（1）特別支援教育の充実



（図 1）自立活動でバランサーに取り組んでいる様子



（図 2）特支の自立活動で自分の気持ちを伝え合っている様子



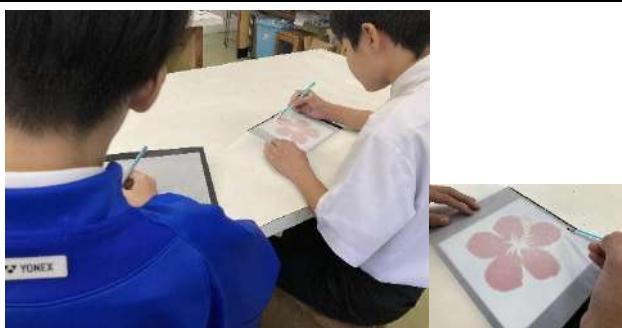
(図3) 通級指導でお互いのストレス反応を予想してみる様子



(図4) 特支の自立活動においてウボンゴを使用



(図5) タイマーを活用し、真剣に取り組む生徒



(図6) トレース台を活用して課題に取り組んでいる様子

(2) 進路指導の充実



(図7) 高校別に資料を分類



(図8) 過去問や問題集で学習する生徒



(図9) 生徒同士で面接練習している様子

(3) 授業改善・授業力向上



(図10) 学習支援で活用しているホワイトボード



(図11) 英語のリスニングでラジカセを使用



(図 12) 昨年の学習発表会展示の様子

4 成果

- (1) 特別支援教育において自立活動や通級教室指導で意欲的に参加する生徒が増加した。また、校内研修において情報共有する時間を設け、支援計画等に多くの先生方が関わり作成し、生徒1人1人の困り感について共有と対応ができた。
- (2) 進路指導において、情報や教材を整理整頓と常設したことにより生徒が自主的に活用する様子が見られた。休み時間等にも活用している様子が見られ、学習に向かう雰囲気作りに役立っている。
- (3) 学力向上推進に向けて、校内研修でICTを活用するための研修を計画的に実施できた。そのため公開授業で多くの先生方がICTを活用した授業改善の工夫が見られた。
- (4) 地域ボランティアの協力のもと数学、英語の学習支援を実施できた。生徒も「分かるようになった」と意欲的な意見が見られる。

5 課題

- (1) 主体的に学習する生徒が少ないため、家庭学習の時間が少ない。授業改善の工夫やICTの活用、学習計画表を活用して振り返りを行っているが、学習計画を行い家庭学習を主体的に取り組めるような取り組みをさらに推進したい。
- (2) 学力向上推進のために地域人材の活用を行っているが、数学のボランティアが少なくなっているため、生徒が学習支援を受けることができる時間が少ない。

学校名 南城市立知念中学校	連絡先 TEL : 098-948-1303 E メール : chichu-kyoutou@du.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 校内研

(1) 研究テーマ：「自立した学習者」を育て支援するファシリテーターとしての教師の役割

(2) 実践内容

① 一事徹底について

「自学自習の充実」

各教科の基礎・基本の定着のため、自学自習の習慣化を図り、学力向上を図る。

② 学力向上推進の取組（キーワード：全校体制・継続と徹底）

ア 県学力到達度調査及び全国学力調査に向けた取組

- 既習内容の確実な定着に向けて、各教科で定着状況の分析及び対応策を検討し、全校体制で計画的に実施した。
- 各教科、前年度の結果分析から取組について検討し、共通実践を行った。
- 各教科の取組において、家庭学習課題、自学自習会等を効果的に活用した。
- 県学力到達度調査実施後、結果分析・対応策を検討し、生徒にフィードバックを行う。また、次年度の学力調査に向けて継続して学力向上に取り組む。

イ 各学力調査日程（令和7年度）☆は業者テスト

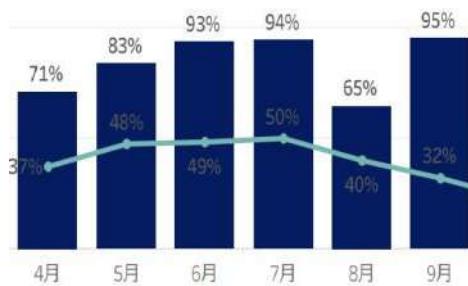
実施月	4月	9月	10月	11～12月中旬	1月	2月
	【3年】 全国学力状況 調査 【1, 2年】 ①市標準学力調査 ②県学力調査 (学びのたしかめ) 自動採点・web入力 なし	【3年】 ☆実力（学力 診断）テスト	【3年】 市学力調査 ○志望校判定 【1・2年】 ☆実力（学力 診断）テスト	【全学年】 県学力到達度 調査 ○1,2年：自校 採点・web入力 あり ○3年：自己 採点・web入力 なし	【3年】 ☆実力（学力 診断）テスト	【3年】 リハーサル テスト
1年	①国数 ②数（CBT）		5教科	数・英		
2年	①国数英 ②数（CBT）		5教科	国・数・英		
3年	国・数・理 (CBT)	5教科	5教科	5教科	5教科	5教科

ウ 自学自習会の実施

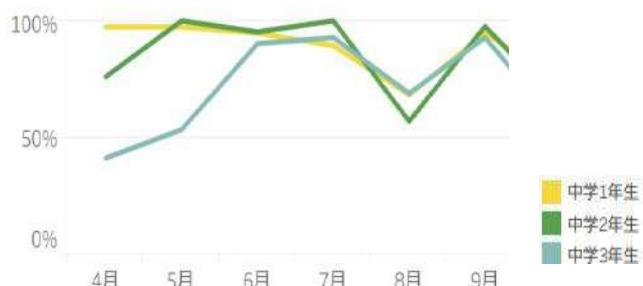
- 1学期中に生徒会を中心に、生徒たちの自発的な自学自習会（J. J）の立ち上げおよび呼びかけを行った。
- 学年を問わず、生徒が自主的に集まって学び合い学習をする時間を設ける。学習時間は水曜日の放課後～PM 4：40までとする。
- 夏休み地域学習ボランティアを活用、また職員がローテーションで見守り、個に応じた学習支援を行った。

エ スタディサプリを導入し、朝学習、授業内、宿題、テスト対策など活用した。

■月別の生徒活用率推移(全校) ※折れ線は全国平均



■学年別の生徒活用率推移(学校)



- 4月以降9月までの全期間において、全国水準を大きく上回る活用状況となっている。学年間でも大きな活用差がなく、3学年で万遍なく活用できているほか、長期休暇期間も活用率をキープしている。3年生に関しては、今後高校受検に向けた学習も進められていくため、「受験対策講座」等、受験に向けた活用をしていく。



1年朝学習(スタディサプリ等)

2年朝学習(スタディサプリ等)

3年実力(学力診断)テスト

(3) 成果

- 実力(学力診断)テストを活用することにより、生徒は自分の位置を把握し、課題が明確になり、学習意欲の向上につながった。
- 学力向上推進委員会で、生徒の実態や課題などについて話し合い、校内研修テーマ「自立した学習者」を育て支援するファシリテーターとしての教師の役割について確認した。研修を重ね、実践、授業改善に取り組むことができた。
- スタディサプリを導入することにより、朝学習、授業内、宿題、テスト対策など、自己調整学習の一選択肢として、ドリルや動画を活用することにより、自ら意欲的かつ計画的に学習できる生徒が増えた。

(4) 課題と対応策

- 実力(学力診断)テストを通して、結果分析について、各教科担当との共有が必要である。今後も課題の分析、授業改善、生徒支援の在り方について検討が必要である。また、外部講師招聘、校内研修の充実を継続する必要がある。
- 学習意欲が低い生徒に対し、学期末の評価面談だけでなく、個別に適宜、中間評価面談を行い、学習の進捗状況と一緒に確認する。
- 自己管理手帳(フォーサイト)や各教科掲示板の活用、クラスルーム(テスト日程)等の確認を粘り強く行う。継続することでフォーサイトの内容を深め、計画的に学習する生徒の増加につながる。

1 校内研修

(1) テーマ「自立した学習者」の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

(2) 年間計画

月	日	曜	研修内容	備考
4	4	金	【第1回校内研修】 ・校内研修全体計画の共通理解 ・配慮を要する生徒の共通確認 ・フォーサイトの活用方法 ・避難時避難場所の確認	・昼休憩時間を活用して学年単位で避難場所を確認
5	9	金	【第2回校内研修】 ・スクールプランの共通理解 ・一人一台端末の効果的な活用方法	・ICT支援員
7	31	木	南城市職員研修会	・通常学級にいる支援が必要な生徒への手立て
8	26	火	【第3回校内研修】午前 ・Q U テスト分析	・講師招聘
8	26	火	【第4回校内研修】午後 ・ICT研修 1台端末機を使った教材づくり ・S S T研修	・ICT支援員
8	27	水	【第5回校内研修】午前 ・魅力ある学校づくり ・救急救命入門	
8	27	水	【第6回校内研修】午後 ・メンタルヘルス	・講師招聘
9	30	火	【第7回校内研修】 ・指導主事招聘研究授業及び授業研究会 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について」	
1	25	日	【第8回校内研修】 ・本年度の取組のまとめ（成果と課題）	

2 2学期に向けてのメンタルヘルス（校内研修の充実）

【テーマ】「心の健康状態について理解し、ケアする方法を学んで2学期に向けて良いスタートを切ろう」

【日時】R 7. 8. 27 (水) 14:00~16:00

講師：新垣美花さん

【内容】

メンタルヘルスに関する講座を聴き、教職員の一人ひとりの嗅覚分析チェックシートとともにアロマスプレーを用いたセルフケアの方法について学んだ。

【職員の感想】

- ・嗅覚からもストレスを緩和し、体の調子を整えることができると分かった。
- ・嗅覚反応分析の結果で瞑想がストレスへのケアができるとわかった。ただそのときどきで心の状態が変わるためその都度この分析をやらないとケアにつながらないのではないか？
- ・嗅覚分析表の結果やアドバイスをみて、自分の思っていないものもあって面白かったです。アロマオイルを活用して、2学期も心身の健康に気をつけて過ごせるようにしたいです。
- ・匂いを用いた分析は初めて行ったため勉強になった。日ごろから癒されるにおいを探していきたい。
- ・少し、学級でアロマを使おうかなと思った。
- ・効果的な時間帯で自分のスプレーを使いたいと思った。



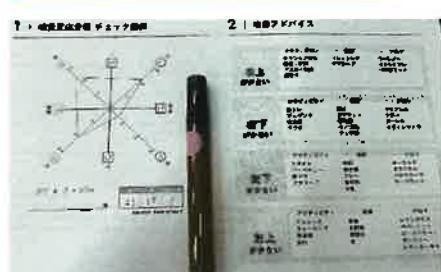
講師紹介：新垣美花さん



新垣美花さん職員へ挨拶



メンタルヘルス講話スタート



分析チェックシートとアロマスプレー



シートの見方の説明を受ける職員



お礼のことば 大城日菜子先生より

【成果】アロマキットで事前に臭いをかぎ、好みの臭いから順位づけしていくことで各々の心身の状態を分析チェックシートで確認できた。アクティビティ、食事、アロマの3項目を自分に合うアロマスプレーと合わせながら過ごすと心身ともによい状態になることがわかり、ほとんどの職員もモチベーションがあがる研修となった。また、嗅覚分析チェックシートから個々に適したアロマスプレーで使う時間帯に応じて癒やしや元気になることがわかった。

【課題】アロマが苦手な職員も含め、別のメンタルヘルスも考えたい。

3 主体的に考え行動できる生徒

【実践内容】

- ①タイマーを活用したタイムマネジメントを意識した授業展開（問題を解く、グループ交流、自分の考えを書くなど）



タイマー活用して問題を解く



集中して取り組む生徒たち



短歌創作のための交流

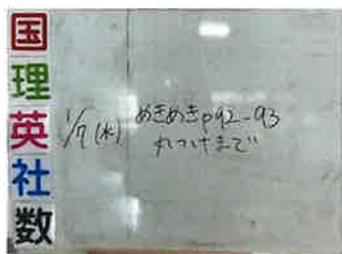
【成果】タイマーを活用して授業展開したことで生徒が集中して問題に取り組めた。また、ペアやグループ交流でも時間を意識して交流することができた。

【課題】時間切れが近づくと取り組むことをやめてしまう生徒への対応。

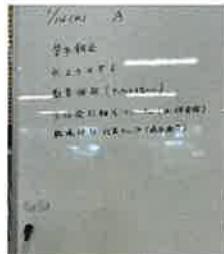
【実践内容】

- ②ホワイトボード・マグネットを活用した学習委員会と教科係の活動の充実

各学年フロアに置き、各教科の課題の提示と日程を書いている。学習委員または教科係が帰りの会前までに確認し、帰りの会で学級に連絡をする。自主学習の一環として定着している。マグネットは、外部からのお知らせの文書が届いた際に活用している。



各教科担当で課題提示する。



日程記入

【成果】曜日で各教科の課題提示を続けたことで、継続して取り組めている。記入がないと、生徒から教科担任に聞きにいくなど自主的に行動できている。また、生徒が自ら日程の確認ができている。

【課題】提出しない生徒への個別対応。

【実践内容】

- ③デジタルカメラ・micro sdカードを活用した「よさ」を認め合う取組の充実

学校行事、生徒会行事や全体朝会、生徒会朝会の様子を撮影した。



購入したデジタルカメラ・microsdカード



学校かくれんぼ 校長先生と生徒



校長講話の様子

【成果】撮影した写真を学校だよりや朝会時、校内掲示などに活用することで生徒の自己肯定感向上につながった。

【課題】なし

【実践内容】

④レーザーポインターを活用した効果的な取組の充実

校内研修や朝会時に活用し、スムーズに資料を提示することができた。



購入したレーザーポインタ



校長先生による校内研修
(レーザーポインター)



校長先生による講話
(レーザーポインター)

【成果】レーザーポインターを活用することでスムーズに資料提示することができた。

講話を聞く側も集中して聞くことができた。

【課題】なし

【研修参加内容】

⑥リーディングDXスクール/生成AIパイロット校公開授業および公開研究会への参加
(嘉手納中)

【内容】

- ・生成AIを活用した個別最適な学びの促進
- ・生成AIを活用した創造的なプロジェクトの推進
- ・デジタル化による業務の効率化

【成果】

クラウドを活用した文書管理や共有のシステムを導入することで、校務の効率化につながることができた。

【課題】

現在は使用に制限がかかり、生成AIが活用できない。今後、業務や授業で生成AIが活用できるようなネット環境の整備をお願いしたい。

【実践内容】

⑦書籍を活用した効果的な取組の充実

エンカウンターやSSTに関するものは担任の先生を中心に学級で行い、アンガーマネジメントでは「イライラ」についての基礎知識を学び、ケース別のアドバイスを参考にするなど「報・連・相」+書籍も参考に生徒への対応をスムーズにできるようにした。その他の書籍としては、職員の働き方改革につながる内容である。



購入した書籍

【成果】

すぐ手にとって読むことで、エンカウンターやSSTは実践しやすい。

アンガーマネジメントはケース別に分かれているので、いろんなパターンの接し方がわかる。

【課題】

職員間の情報共有の時間の確保。

【実践内容】

⑧付箋紙を活用したワークショップ型研修の取組の充実

校内研修でのワークショップの際に、成果と課題で色分けをしながら活用した。



校内研修のワークショップ



授業研究会の様子

【成果】

色分けしたことで、視覚的にわかりやすい。

他者のものの見方考え方が一目でわかった。

【課題】

似た内容はグループ分けをするなどして見出しも入れるとさらに見やすくなる。

【実践内容】

⑨棒磁石・S磁石（理科）を活用した実験取組の充実

【成果】

磁力が強くなったため、磁石を使う実験で生徒にもわかりやすい結果になった。

【課題】

磁石の数が増えると、少人数で実験でき、より深い学びにつながることが期待できる。

3 感想

職員向けのメンタルヘルスやDX研修参加、書籍購入など職員のスキルアップにつながる研修を行ったことで、心身ともに健康に過ごし、自己研鑽のよい機会となった。また、生徒の学習を支える物品を購入したことで効果的な学習の規律となった。学校だよりや朝会時の様子を視覚化することで、生徒のよさを認め自己肯定感の向上にもつながった。次年度は、更に職員向けの研修を充実させ、生徒の自ら課題を解決する力の育成へとよりアップデートしたい。

1 実践事項（校内研修の充実）

（1）校内研修テーマ

自ら学ぶ大中生の育成

～学びの DX 実現に向けた「個別最適な学び」「協働的な学び」を通して～

2 実践内容

（1）目的

中央教育審議会（2021）の答申『令和の日本型教育』では、学びに向かう力とは、「目標や教材を理解し、計画を立て、見通しをもち、学習の進め方を自ら調整できる力」であり、発達段階に応じた育成が重要であると示されている。本校においても、学力の底上げ（授業改善）、自立した学習者の育成が喫緊の課題である。そのため、DX を活用した個別最適な学び・協働的な学びを推進し、さらに「自立ノート」を活用することで、生徒自身が計画的に学習に取り組む習慣を身につけ、長期的に学び続ける姿勢を育むことを目指した。

（2）計画

- ① キャリア教育を意識した校内研修
- ② 全校生徒への「自立ノート」活用説明
- ③ 自立ノートの活用・実践
- ④ 校務 DX の進め方に関する研修
- ⑤ DX 実践校（コザ中・嘉手納中）視察
- ⑥ DX 推進研究として公開授業および研究発表会の実施

3 実践の概要

（1）キャリア教育を意識し取り組み（校内研修）

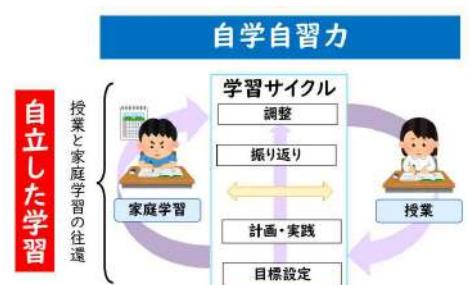
①「自学自習力の育成」

目標達成に向け、現状を把握し、必要な学習を計画し、自己調整しながら継続して学ぶ力を育成することが重要である。授業では学び方の育成を重視し、家庭学習へ自律的に取り組めるよう支援する。また、将来像を明確にし、自己実現のための行動を計画・実行する力も育てる必要がある。

研修を通して、これらの認識を職員間で共有した。

②キャリア教育における「4つの力」の整理

キャリア教育の目的を確認し、「か・ふ・や・み」の4つの力をもとに、生徒に育成したい資質・能力を整理した。これにより、日ごろ意識している育成目標がキャリア発達のどの要素に位置づくかを理解し、バランスよく育成する視点が職員に広がった。



目標達成に向けて行動する力

主体的に学ぶ授業



「学び方」を育成し、
自律的な家庭学習へ

なりたい自分に向けて



やることを計画し、
行動に移す力が必要

(参照)「キャリア教育基本方針(P7)」「自学自習ガイド(P4)」



キャリア教育で身に付けさせたい力

「かかわる力」「ふり返る力」「やりぬく力」「みとおす力」

(2) 「自立ノート」の活用 (全校生徒への説明)

全体朝会で、キャリア教育担当より自立ノートの目的や活用方法を説明した。

生徒は、テストや部活動の大会など年間行事を確認しながら計画を記入し、計画→実行→振り返りのサイクルを繰り返すことで自学自習力を高めていくことを目指した。

(3) 自立ノートの活用・実践

学級担任を中心に活用を始め、教科担任も小テスト等の予定を早めに提示し、記入を促した。

学級によっては、コミュニケーションツールとしても活用され、付箋を使ったメモ貼付など工夫した実践も見られた。



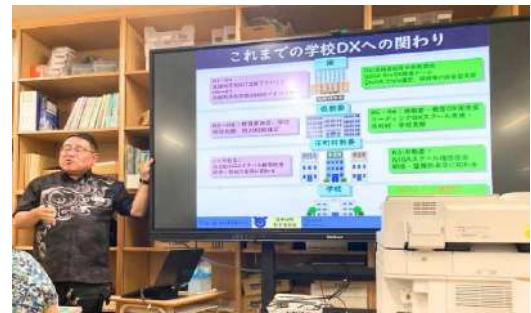
今週の目標		6月24日(火)	6月25日(水)	中間評議会	
・計画通りやっていく		予定	予定	予定	
今週の計画		予定	予定	予定	
国語	□ 新小説	□	□	□	
	□ 漢文	□	□	□	
社会	□ 1・2年の復習	□	□	□	
	□	□	□	□	
数学	□ 1・2年の復習	□	□	□	
	□ 數理	□	□	□	
理科	□ 1・2年の復習	□	□	□	
	□	□	□	□	
英語	□ 1・2年の復習	□	□	□	
	□	□	□	□	
部活動	□	□	□	□	
	□	□	□	□	
提出物	□ 自立ノート提出	□	□	□	
	□ レポート提出	□	□	□	
国語	□ 漢字の復習の時	□	□	□	
	□ 1・2年の復習	□	□	□	
教科名		単元		1・2年の文法	
国語		漢字		1・2年の文法	
目標	結果	チャレンジタイム予定			
漢字	ふりかえり				
テスト前	ふりかえり				
前日からテスト	漢字のミスや間違を減らす				
対策をしてしまった	ました。これからは漢字にだけではなく、他のもの以外の漢字かな? も覚えるべき。				
Free Memo					
7/1(火) 単語テスト					
7/1(火) 単語テスト					
7/1(火) 単語テスト					
7/1(火) 単語テスト					

(4) 校務 DX の推進 (校内研修)

嘉手納町教育委員会より講師を招き、DX 推進校の実践について学んだ。

特に、授業で ICT を使う前に、まず職員自身が校務の中で ICT ツールに十分慣れることの重要性を確認した。

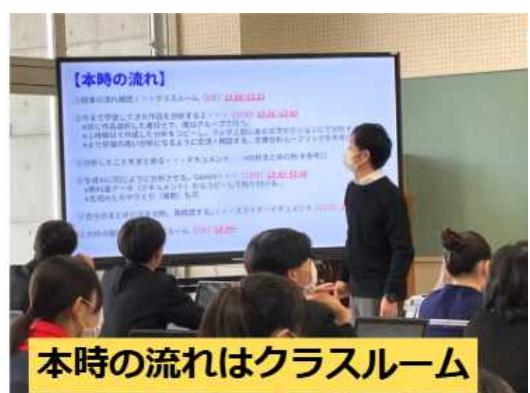
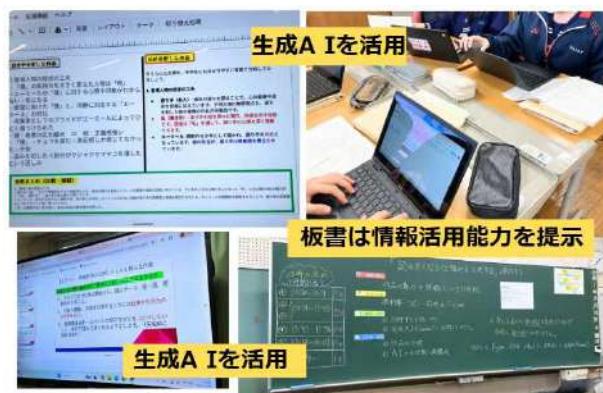
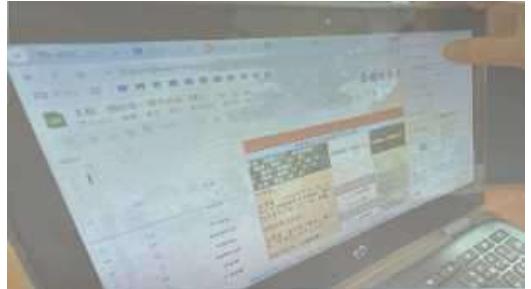
わからないことを共有し、協働しながら改善していく姿勢の大切さも学んだ。



(5) DX 推進研究校の観察

6月にはコザ中学校を訪問し、タブレットによる自己ペース学習や、スプレッドシートを活用した振り返り等を観察した。

7月には嘉手納中学校の公開授業に 10 名以上の職員が参加し、理解を深めた。



(6) 公開授業および研究発表会

①校務 DX の充実

会議資料のペーパーレス化が進み、情報アクセスが容易な「チーム大里ポータルサイト」を整備した。

公開授業でも、これらの校務改善の成果を他校と共有した。

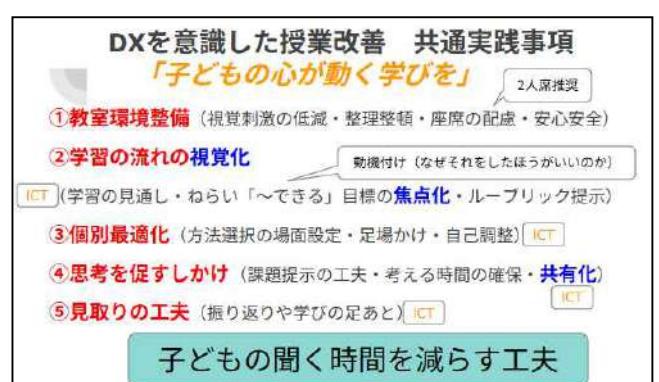


ポータルサイト

②DX を意識した授業改善

校内研修テーマに基づく共通実践事項を設定し、各教科で DX 活用の重点項目を決めて取り組んだ。

互見授業を通して授業改善を進め、初年度として“はじめの一歩”を協力して踏み出す意識を共有した。

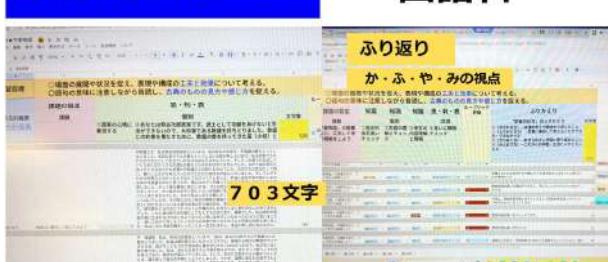


＜授業の様子＞



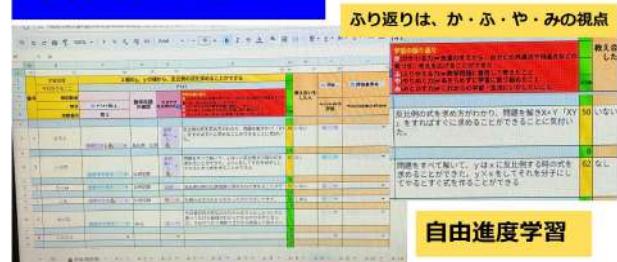
スプレッドシート

国語科



スプレッドシート

数学科



スプレッドシート

理科



スプレッドシート

美術科



4 成果

- ・自立ノートの必要性を職員・生徒ともに共有し、活用を本格的に開始できた。
- 生徒の記録をもとに学びの状況を把握でき、学級でのコミュニケーション向上にも役立った。
- ・DX推進委員会を中心に、校務DXの方向性を協議しながら進められた。
- 教科会での情報共有が活発になり、校務改善につながった。
- ・校務DXが進展し、ペーパーレス化が大きく前進した。
- 各種情報の整理・共通化が進み、職員がICTツールを使いこなせるようになってきた。
- ・先進校視察を経て、授業改善にも具体的なチャレンジが広がった。
- スプレッドシートなどを活用した新しい授業デザインに取り組み、協働の機運が高まった。

5 課題

- ・自立ノートの様式改善

生徒から改善要望があり、今後は意見を取り入れた様式見直しが必要である。

また、活用状況に学級差があるため、今年度の好事例を共有し、次年度の充実につなげたい。

- ・ICT活用が目的化してしまう場面の解消

ツールを効果的に活用する授業デザインの工夫が必要。

言語能力・情報活用能力を基盤に、学習状況の見取りをどう行うかを意識しつつ、教員の学び合いを深めたい。

学校名 南城市立船越小学校	連絡先 098-949-7108 E-mail: funashkyoutou@edu.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 校内研

①研究テーマ

意欲的に運動に取り組み、仲間と共に協力して課題を解決する児童の育成
～児童の困り感に応じた授業づくり及び協働的な活動を通して～

②実践内容

児童の困り感をアンケート等を通して把握し、スマールステップでの場を設定したり、易しい場を紹介したりして、児童が活動しやすい場を自分で作ったり選んで活動したりする取り組みを行った。

また、児童の振り返りでハートのメーターを活用し、児童のモヤモヤを言語化してもらい、学級でその解決方法について考えたりした。

また分析カードや思考ツールを活用することにより、自分やチームの課題を発見したり、練習方法を選んだりできた。

③成果・課題等

○前年度までの課題であった、「勝負に負けたことを認められずトラブルに発展したり、ルールやジャッジの曖昧さから相手を責めたりするような場面」が少しずつ改善してきた。学級で困り感を共有し、みんなが楽しめることを意識し、約束づくりやルール作りを行うことができた。

○場づくりやワークシートを工夫することで、児童同士で学びあったり、アドバイスをし合ったりする姿が見られた。

●単元によって、児童の意欲に差が見られた。1時間目から楽しいと感じるやさしい運動を取り入れていきたい。

→学級や体育的活動で使用できる長縄・ボールを購入した。※写真は最終頁にあります。

2 特別支援教育の充実

実践内容：コグトレ、聞く聞くドリル、特別支援で必要な教材

成果：特別支援学級、普通学級低学年の児童に活用してもらい、学習の基盤づくりを行えた。



聞く聞くドリル



パズル



コグトレ

3 音楽教育の充実

実践内容：①学習発表会での合奏の充実（合奏の楽譜）

②運動会や80周年記念式典における児童の三線演奏（撥と弦）

成果：①児童の自主的な学習への取り組みが見られ、音楽のみならず、特別活動的な視点からも学級学年での取り組みになった。

②運動会や式典に向けての三線演奏に必要な道具であり、学校全体、関わった児童の大きな成長のために大いに活用できた。



4 学級活動の充実

実践内容：休み時間や運動会で活用している一輪車の維持管理に必要であり、子どもたちのための取り組みに活用した。（一輪車の空気入れ部品）

成果：一輪車の維持管理ができた。体力づくりの成果にもつながる。



5 学習活動の基盤づくり

実践内容：鉛筆を削ってこない児童が多く、学習用具を整えることが必要であり、各クラスに鉛筆けずりをおいた。（鉛筆削り）

成果：子どもたちの学習準備に活用できた。

☆体育集会（長縄大会）



☆体育の授業



学校名 南城市立玉城小学校	連絡先 TEL:098-948-7251 E メール: tamasho-kyoutou@edu. city. nanjo. okinawa. jp
-------------------------	--

1 実践事項

(1) 校内研修に係る取り組み

- ①「自ら学びに向かう 自立した学習者の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化を通して～」を校内研究テーマに授業実践と研究を行った。
- ②自ら学びに向かう自立した学習者の育成のために授業改善
- ③理論研修の実施

(2) 予算活用したものに係る取り組み

- ①校内研究テーマに関する書籍を購入し、理論を踏まえて授業を構想・改善する機会を充実させた。これにより、児童が自ら学びに向かう授業づくりを意識した実践が広がった
- ②授業の中でホワイトボードの活用により、児童一人一人が自分の考えを整理・発言し、仲間の考えと照らし合わせながら学ぶ場が生まれた。その結果、協働的な学びを通して主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ③エンカウンターの書籍を購入し、定期的に、ペアやグループでの協力活動や言葉のやりとりを通じた関係作りを通して、校内研修のテーマである個別最適な学び・協働的な学びへつながった。
- ④学級ボールやステップフラットリング、フラットフープを継続的に活用することで、運動による脳の活性化やリフレッシュが図られ、学習への集中力や意欲が高まり、授業に主体的に参加する児童が増えた。また、身近に体を動かせる用具を配置したことにより、休み時間等に自然と運動する機会が増え、児童同士の交流が促進され、学級内の仲間意識の醸成につながった。これらの用具は、体力・健康の向上に加え、規律やマナー、社会性を育む面においても効果を発揮し、単なる遊び道具にとどまらず、児童の健全な成長を支える有効な教育的ツールとして機能している。

タイトル:「踏み出せその第一歩!自立した学習者を育てるために」

2 実践内容

(1) 授業改善について

- ア 「自ら学びに向かう自立した学習者の育成」についての理論研修
- イ 「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の授業実践研修
- ウ ICT 活用を生かした学びの充実
- エ 授業形態の工夫
- オ 一人一授業

(2) 理論研修の実施

- ア 沖縄県立総合教育センターの出前研修の利用
- イ 島尻教育事務所の教科研修を活用し、指導主事を要請しての校内研修を実施した。指導主事には、代表授業の実践を見ていただき、全職員へ指導助言をしていただいた。

3 説明資料



授業展開において、「個人で考える」「友だちと学ぶ」「ICTを活用する」「教科書を参照する」などの複数の学習方法を提示したことで、児童が自分にあった方法を選択し、主体的に課題に取り組む姿が見られた。



ホワイトボードを用いたグループでの意見交流を踏まえ、考えを黒板に掲示することで、学級全体で多様な意見を比較・共有し、学びを深めることができた。

4 成果

○ 主体的に学習に向かう児童の育成

自分の考えをもって話し合いに参加し、他者の意見を取り入れながら学びを深める姿が見られるようになった。

○ 協働的な学びの質の向上

考えを可視化しながら、意見交流を行うことで、表面的な話し合いにとどまらず、理由や根拠を伴った対話が増えた。

○ 教職員の授業改善の意識の向上

校内研究に関する書籍や一人一授業の実践を通して、個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業を展開できた。

5 課題

○ 活用の定着と質の差

ホワイトボードや資料の活用方法について、学級児童間や教職員によって差があった。

○ 時間確保と指導力の向上

話し合い活動を効果的に行うための授業時間の確保や、児童の思考を深めるための教師の支援の在り方（一斉授業からの脱却）が今後の課題である。

【作成要領】

学校名 南城市立百名小学校	連絡先 TEL: 098-948-1012 E メール:hyakusho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項

①子どもたちが主体的に参加できる“委ねる”授業実践の工夫

~ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを通して~

○学習を支える学級経営と児童の関係づくり

タイトル：「学習基盤としてのICT活用“みんなで一歩”」

2 実践内容

本県において「自立した学習者の育成」が喫緊の課題とされる中、本校児童の実態に目を向けると、学力の二極化や学習に対する受動的な態度、自己表現への苦手意識といった課題が散見される。これらを克服し、児童一人ひとりが「見通し」を持ち、自らのペースやアプローチで学びを深めていくためには、一斉指導のみならず、個に応じた学びの充実が不可欠である。

そこで本校では、学習の土台となる「安心・安全な学級経営」と、学習の基盤としての「ICT活用」を研究の両輪と位置づけた。児童がICTを文房具として活用し、他者と協働しながら自己の学びを調整・ふり返る過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、以下の5点について重点的に取り組んだ。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（1）学習基盤としてのICT活用の校内研究と授業改善

単なる機器操作の習得にとどまらず、沖縄市「Leading DX」を牽引する仲間主事を講師に招き、学習の基盤となる「教科書を深く読み解くこと（教材研究）」の重要性を学んだ。その上で、思考を整理・可視化するための「文房具」としてタブレット端末の活用に取り組んだ。

授業では、1年国工でのイラスト参照や、6年社会での複数資料の読み取り・まとめなど、発達段階に応じた活用を推進した。また、家庭学習ノート（自学自習）の「お手本掲示」や、教師からの励ましコメントを通して、家庭学習の質の向上にも取り組んだ。さらに、校務DXとして欠席連絡や連絡会資料のクラウド化（Google フォーム・スプレッドシート活用）を進め、教職員が子供と向き合う時間の確保に努めた。

① 沖縄市のリーディングDXを指導助言してきた仲間先生を招聘して、ICT活用の意義を学ぶ



学習基盤としてのICT活用の意義について、講師を招いて研修

② 第2回の仲間先生を招聘して研修会を開く
ICT活用と教科の見方・考え方を働かせる「教科書読み」について学ぶ



ひとり一人の学習状況を把握するためにICT活用



教科書読みの説明（情報活用）

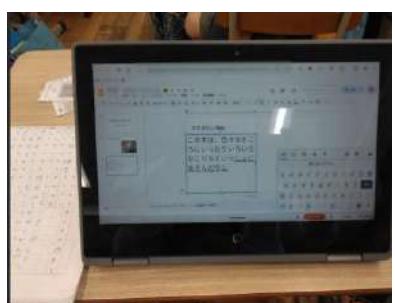
③ 全職員必ず一回は行う公開授業では、ICTを活用



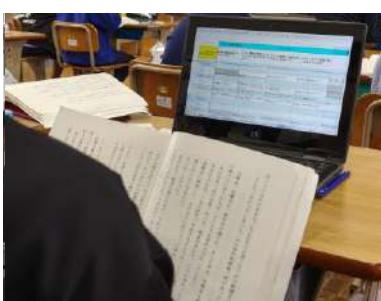
1年:図工でイラストを参考



2年:生活科 気づきを付箋で共有



3年:国語 おすすめをスライド入力



4年:国語 読み取った情景を共有



5年:外国語 ふりかえりを蓄積



6年:社会 資料を読み取りまとめる



特支:自立活動で表現の補助教材

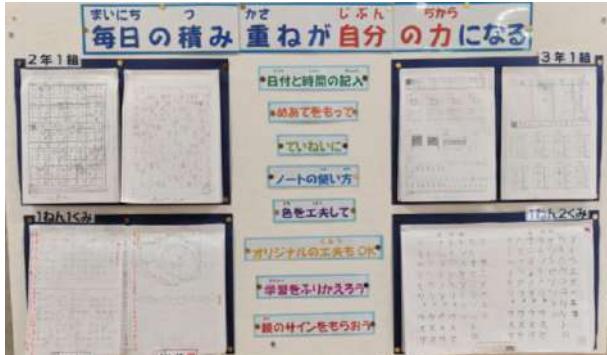


専科:理科測定結果を記入、協働参照

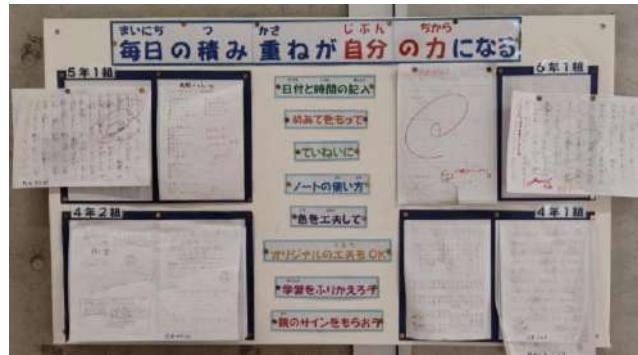


ICT支援員:ワークシートの作成や授業でタブレット活用の補助など

④ 自学自習力を高めるための家庭学習ノートのお手本掲示



1～3年のお手本掲示板 教師からの励ましコメントあり



4～6年のお手本掲示板 励ましコメント

⑤ 校務DXとして日常的にクラウド活用

年	月	日	期間	年齢	性別	会員登録	会員登録の場合は、会員登録用のIDとパスワードを記入ください
2025/06/24	15:56:52		×	5歳 1組		会員	猪俣
2025/12/01	7:27:30		等	2年 1組		会員	体調不良
2025/12/01	7:31:03		星	4年 1組		会員	毛の他
2025/12/01	7:38:07		等	1年 1組		会員	体調不良
会員登録							
Google フォームとスプレッドシートの活用							
2025/12/01 8:03:53							
年	月	日	期間	年齢	性別	会員登録	会員登録の場合は、会員登録用のIDとパスワードを記入ください
2025/12/01	8:25:35		星	5年 1組		会員	毛の他
2025/12/01	8:34:02		等	6年 1組		会員	インフルエンザ
2025/12/01	8:36:57		火	4年 1組		会員	毛の他
2025/12/01	8:37:35		星	4年 1組		会員	毛の他

教室から確認できる欠席連絡のクラウド化

連絡会の内容もクラウド化 協働参照・編集

(2) 地域と連携した校外学習

地域連携コーディネーターと協働し、教科書の内容と実社会を結びつける体験活動を展開した。

4 年の市役所見学や世界遺産（斎場御嶽）学習、5 年のコストコでの物流学習、6 年の奥武ハーリー参加など、本物に触れる機会を創り出した。

単に「行って楽しかった」で終わらせらず、体験を通して心が動いた発見や疑問を、ICTを用いてまとめ、発信する言語活動へつなげることで、学ぶことの意義や楽しさを実感させた。



4年：社会 市役所について学ぶ



5年：社会 コストコで物流学習



6年：総合 奥武ハーリーに参加



消防士を招いて防災について学ぶ

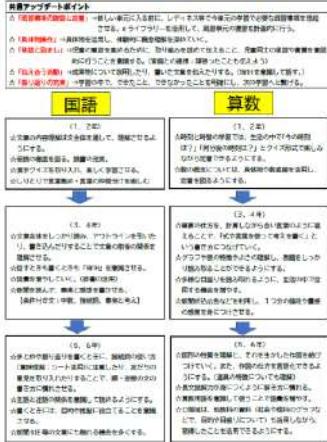


世界遺産で学ぶ（斎場御獄）

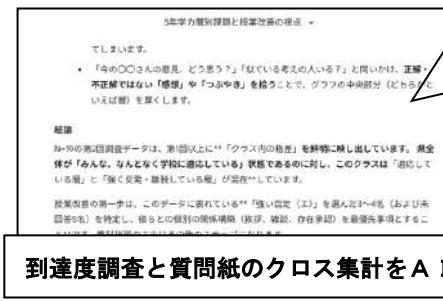
(3) 諸検査に基づいた分析と共有

学力の二極化に対応するため、経験や勘だけでなく、データに基づく客観的な実態把握に努めた。各種学力調査の結果を分析し、低・中・高学年ごとの指導の重点を明確化して各教室に掲示した。さらに、到達度調査と質問紙調査のクロス集計をAI分析にかける新たな試みも導入した。児童の学習意欲と学力の相関を可視化することで、個々のつまずきの要因を多角的に捉え、3学期や次年度の学級経営・学習指導の改善に役立てている。

冒名小アップデート!



諸調査（学びのたしかめ、学調）の分析結果をもとに、低学年、中学年、高学年でどんな指導をするか具体的にまとめ、各学級に掲示している。



到達度調査と質問紙のクロス集計をAI分析し、3学期・新年度にむけた学級経営に役立てる。

到達度調査と質問紙のクロス集計をAI分析

(4) QUテストとSGEタイム(構成的グループエンカウンター)を学級経営に活かす

協働的な学びの土台となる人間関係づくりのため、山内小学校の玉城先生を招き、QUテストの効果的な活用法について研修を行った。分析結果に基づき、学級ごとの課題に応じた「構成的グループエンカウンター (SGE)」を計画的に実施した。互いのよさを認め合う活動を通して、自己有用感や他者受容感を高め、「支持的風土」のある学級づくりを推進した。



玉城先生からQUテストの活用を学ぶ研修



4年みんな混じって、じゃんけんゲーム

(5) 異年齢集団の関係構築に向けた取り組み

単学級ならではの人間関係の固定化を防ぎ、社会性を育むため、学年を超えた「縦のつながり」を強化した。日常的な「縦割り班清掃」に加え、2学期初日には全校での「学校レク（ミッションゲーム等）」を実施した。高学年は下級生をリードすることで責任感を養い、低学年は上級生をモデルとして学ぶ「斜めの関係」が構築された。これにより、学校全体を一つのチームとする安心感が生まれ、学習活動における心理的安全性の向上にも寄与した。



2学期初日に学校レクを実施(ミッションゲーム)



異年齢集団での清掃活動(縦割り班清掃)

4 成果

- 外部講師（仲間主事）による研修を通じ、教職員が「教科書読み」の重要性を再認識し、ＩＣＴ活用の意義を理解し、「思考させるための道具」として活用する授業へと転換できた。
- 諸検査のクロス集計やAI分析を取り入れ、教職員全体で共有して取り組んだことで、客観的根拠に基づいたきめ細かな指導方針を共有できた。
- コストコ見学や奥武ハーリーなど、地域資源を活用した体験活動により、児童の学習への関心・意欲が刺激され、主体的に学ぶ姿勢や表現活動の豊かさにつながった。
- ＱＵテスト分析に基づくＳＧＥの実践や、縦割り班清掃・学校レクを通して、異学年間の交流が活性化した。これにより、百名小学校としての所属感が高まるとともに、学校全体に安心・安全な支持的風土が醸成された。

5 課題

- ▲授業におけるＩＣＴ活用は日常化しつつあるが、その活用の「質」には課題が残る。単に機器を使用するだけでなく、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、児童の思考をより深めるための授業改善に取り組んでいく。
- ▲児童一人一人が、授業や家庭学習において自立した学習態度を身につけるためには、児童自身が見通しを持って活動できる仕組みの構築が不可欠である。そのためには、教師の授業観への転換と、それを支える全職員協働の体制づくりに、継続して取り組んでいく必要がある。
- ▲学級ごとの雰囲気や指導スタイルの違いにより、児童の安心感や学習規律の定着に温度差が生じないよう配慮が必要である。どの学級の児童も安心して学べるよう、学校全体で大切にすべき指導の軸（スタンダード）を共有・実践し、チームとして温かい支持的風土のある学級経営を確立する。

学校名 南城市立知念小学校	連絡先 TEL : 098-948-1302 E メール : chisho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

タイトル：「総合的な学習の時間を要にしたカリキュラム・マネジメントの工夫」

2 実践内容

- ・本校の校内研テーマ「主体的に問題を解決しようと学びに向かう児童の育成～総合的な学習の時間を要とした異学年交流をとおして～」とし、総合的な学習の時間を要にしたカリキュラム・マネジメントの実践を図る。
- ・3学年では「福祉について・UDの視点で知念を考えよう」をテーマに福祉についての学習を行った。
- ・4学年では「人・もの・自然を結ぶ地域の仕事」をテーマに農作物栽培等にチャレンジした。
- ・5学年では、「知念のすてきな人に出会う」をテーマに、地域の様々なバックグラウンドを持つ方との交流を行った。
- ・6学年では、SDGsの観点から「南市の未来を描こう」というテーマで環境学習にチャレンジした。
- ・いずれの学年もゴールを異学年に分かりやすく伝えることを目標に取り組みを進めていた。
- ・国語科や社会科、特別活動においても、総合的な学習の時間のテーマに関連させた取り組みが進められ、総合的な学習の時間が要となったカリキュラム・マネジメントを進めることができた。

3 説明資料

①3学年の取り組み

「福祉について」をテーマに、点字講話、アイマスク体験、盲導犬講話、世代間交流事業（モルック大会）、身体障がい者交流（ボッチャ体験）を通して、障がい者を支える道具についてやニュースポーツ体験を行い、障がい者理解を深めた。知念フェスティバルでは、福祉体験コーナーを設け、点字・ボッチャ・モルック・アイマスクにチャレンジしてもらい、福祉体験で学んだことを伝える。

また、自分たちにできることは何かという視点から「UDの視点から知念を考える」をテーマに、自分たちのなじみのある場所やお世話になっている場所などを改めてみんなが使いやすい場所になるよう、UD化の構想を考えていく予定である。



ボッチャ体験の様子



アイマスク体験



盲導犬講話

② 4学年の取り組み

「人・もの・自然を結ぶ地域の仕事」をテーマに農作物栽培等に取り組んだ。地域の農業家の方に監督してもらいながら、南城市の特産である「インゲン豆」の栽培・収穫に力を入れてきた。また、知念フェスティバルでは、収穫したインゲン豆をどのように販売するかということを主体的に考え、食品を開発したり、どのように販売すると利益ができるのかなどの金銭教育も合わせて行った。



インゲン豆を育てる様子



←袋に分けて販売の準備

収穫の様子→



知念フェスティバル「福祉体験」に向け、ボッチャセット・モルックセット購入。また、のこぎりを購入し、看板作成を行った。

4 その他の取り組み

全国学力・学習状況調査の結果から、低学年での具体物の操作活動を充実させることで学力向上につながると考え、算数セットを購入し活用している。

5 成果

- ・総合的な学習の時間を要としたカリキュラム・マネジメントを行うことで、相手意識・目的意識を持ち、主体的に学びに向かう姿が多くみられるようになった。
- ・各教科を関連させ、カリキュラム・マネジメントの方法が各学年において見通しが持てるようになってきた。

6 課題

- ・もう少し、長いスパンで見通しやゴールイメージを持った取り組みを、子どもたちと共有しながら計画できること、もっと深い学びや主体性を引き出せるかと考える。また、協力を得たり、相談やアドバイスをもらったりという他機関との連携についてもスムーズに行えるかと考える。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点で、各教科の関連を考えていく手法やその方向性についての研修を計画し、今後も総合的な学習の時間や生活科を要としたカリキュラム・マネジメントを推進し、教師も子どもたちも定着した学び方をしていきたい。

学校名 南城市立佐敷小学校	連絡先 TEL : 098-947-6212 Eメール : sasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

I 実践事項 (①)「南城市立佐敷小学校の取り組み」

① 校内研修に係る取り組み

- 国語科において、資質・能力の育成に向けた言語活動の設定が充実した単元計画をすることで、児童が自らの学びを把握し、ともに学び合う児童の育成を目指す。
- 「佐敷小校内研究について 昨年度の取組と今年度の研究」(4月)
 - 「ソーシャルスキルトレーニングを生かした学級づくり」 講師:仲村 将義
 - 理論研修「国語科における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」について(5月)
琉球大学アドバイザリー事業による講師招聘 講師:上江洲 朝男
 - 「心肺蘇生法」 講師:島尻消防
 - 「生徒指導・いじめ」について(6月)
琉球大学アドバイザリー事業による講師招聘 講師:白尾 裕志
 - 講師を招聘しての「授業づくり」(7月)
琉球大学アドバイザリー事業による講師招聘 講師:上江洲 朝男
 - OJ充実月間に向けての各教科(算数・社会・道徳・勇気づけ部会)での授業検討(7月)
 - 全体研・公開授業(9月) 島尻教育事務所指導主事:長門 照乃
 - OJ(算数・社会・道徳・勇気づけ)部会充実月間(10月)
 - 各学年の研究発表(2月)

2 実践内容

【保・幼・こ・小連携】

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に適応できるよう、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュラム』を計画・実施し、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を公開した。目的(何のために)及び実践内容(何を)と手立て(どのように)について、1学年を中心に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。

○保幼こ小連携合同研究会

◎佐敷小公開(5月) ◎南城みなみ保育園訪問(7月)



【小・中連携】

本校では、指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業に職員を派遣し、小中連携における公開授業を実施した。

◎小中連携合同研究会

- ◎オンライン研修会(学力調査官招聘 数学 5月 算数・国語 6月) ◎与那原東小参観(算数 7月)
- ◎東風平中参観(数学 11月) ◎ゆたか小参観(国語 12月) ◎馬天小(算数 11月)
- ◎中学校校区合同研究会 ◎馬天小学校(10月)
- ◎南城市臨時の任用職員研修・南城市情報担当教諭連絡会(講師:上原壮 教諭 4月)
- ◎南城市学力向上推進協議会主催研修 公開授業(授業者:上原壮 教諭 5月)
- ◎学力調査官招聘「理科観察・実験に関する研究協議会 公開授業(授業者:上原壮 7月)
- ◎南城市初任者研修・南城市中堅教諭等資質向上研修(講師:上原壮 8月)
- ◎第73回九州地区理科研究大会(沖縄大会) 公開授業(授業者:上原壮 11月)

- ◎佐敷中校区校長相互授業参観・連携協議(4・7・11・2月)
- ◎校区生徒指導・教育相談担当情報交換会(新入生の情報共有・校則の指針について等)



【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

- ・CS構成員との授業公開・情報交換会(各学期)
- ・中学校区CS構成員との情報交換会(1学期)
- ・朝の立証活動(支部こども会・地域ボランティア)
- ・広報誌発行(PTA広報部:各学期)
- ・童話お話大会(PTA総務部:2学期)
- ・地域コーディネーターの活用(通年)

○低学年

- ・水遊びにおける見守りボランティア(保護者 1学期)
- ・交通安全教室(与那原警察署 1学期)
- ・町探検(地域事業所 公共図書館 1学期・2学期)
- ・佐敷千鶴観察会(地域ボランティア 1学期)



○中学生

- ・町探検(東コース・西コース 4月)
- ・スーパー見学(丸大佐敷店 6月)
- ・工場見学(株式会社トリム 9月)
- ・消防署見学(島尻消防署 11月)
- ・昔の道具体験(具志頭歴史民俗資料館 2月)
- ・そろばん講師による学習(2月)
- ・キャリア教育 職業人講話(7月)
- ・尚巴志アウトリーチ事業(南城市文化課 9月)



○高学年

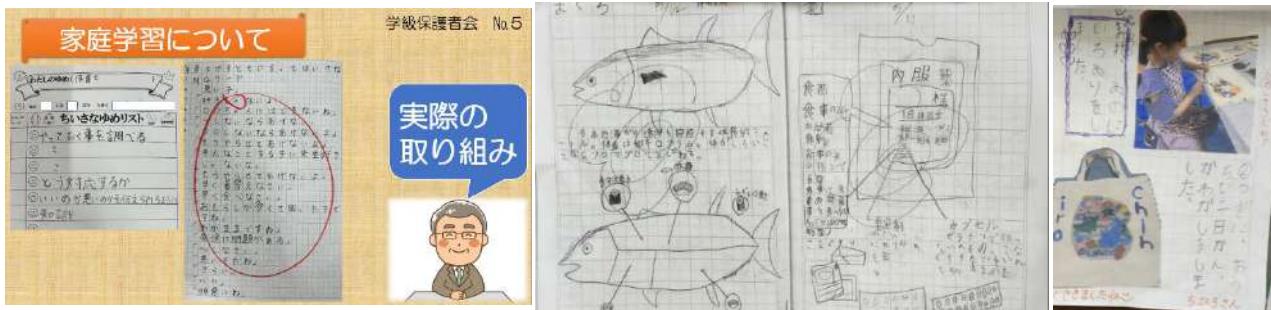
- ・佐敷千鶴フィールドワーク(地域ボランティア・保護者 1学期)
- ・佐敷千鶴清掃(2学期)
- ・環境教育「モビリティマネジメント」(南城市企画部政策調整室 1・2学期)
- ・体育学習発表会エイサー演舞の地謡(地域ボランティア 11月)



【「でっかい夢ノート」の活用】

- 「でっかい夢ノート」を活用し、学びを価値づけ、自立した学習者を育む。

これまでの「がんばりノート」をなくし、自分の夢に向かって取り組む「でっかい夢ノート」へと変更し、「やらされている学習」から「自分から取り組む学習」への転換を図る。具体的には、自分の夢に向かって、「小さな夢リスト」を作成し、それを少しずつ取り組み、達成させていく。そのことで、現在、学校で学んでいることが、自分の夢に向かっていくために価値があることを実感させ、学校の学びを価値づけることで、子どもたちの夢に向かう意欲や主体性を引き出すことができる。



4 成果

- ・学びのつながりを感じ、家庭や地域での生活経験と体験、既習内容を生かすことへの価値を見いだす児童の姿が見られるようになった。
- ・保護者や地域、関係団体の教育参加意識が高まり、学校・家庭・地域社会の相互の協力のもと、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域ぐるみで育成しようとする雰囲気を醸成することができた。
- ・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

5 課題

- ・子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法を考案していく必要がある。
- ・地域の人材を学校支援ボランティアとしての効果的な活用するための情報収集。
- ・「でっかい夢ノート」の更なる充実を図るため、様々な機会において取組への継続的な説明。

学校名 南城市立馬天小学校	連絡先 TEL : 098-947-6535 E メール : basho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項

タイトル：「〈チーム馬天〉で取り組む学力向上」

2 学推予算の活用内容

1. 国語教科書ワークについて
2. 椅子へのクッションマットの使用について
3. 校内研と連動した研修会への参加について

3 説明資料

1. 国語教科書ワークについて

① 活用の方法

国語教科書ワークは、教科書での学習後に内容理解を確認するための「たしかめ」として活用した。また、学習内容の定着を図る目的で、復習を中心とした宿題として使用した。さらに、他学年を学習指導する場面においては、児童が自分一人の力で課題に取り組むためのワークとして位置付け、個に応じた学習の充実を図った。加えて、単元末やテスト前にはプレテストとして活用し、理解度の把握と指導の振り返りに役立てた。



② 成果

教科書で学習した物語文や説明文が簡潔に整理されているため、読解に苦手意識をもつ児童にとっても取り組みやすく、学習への抵抗感の軽減につながった。また、「基本」「練習」「まとめ」と段階的に構成されていることにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができ、自分の力で課題に挑戦しようとする姿が見られた。教科書の補助教材として活用することで、学習内容の理解を補完し、知識・技能の定着を図ることができた。

③ 課題

一方で、ルビが付されていない箇所があったり、記入スペースが小さかつたりするため、そのまま使用することが難しい児童も見られた。また、教科書とは異なるイラストが用いられていることに対し、違和感を抱く児童もあり、学習への集中を妨げる要因となる場合があった。今後は、必要に応じて教師が補足説明を行ったり、書き込み方法を工夫したりするなど、児童の実態に応じた支援を行うことが求められる。

2. 椅子へのクッションマットの使用について

① 活用の方法

固有感覚の調整力の不足等の困り感から席に座れず座っても動いてしまう様子が児童が多い。しかし、通級指導教室においてバランスボールを椅子代わりに活用すると長時間座ることができる児童が多いことから、学級においても自分で調整力を保持する補助具として椅子にクッション等を活用している。

② 成果

○姿勢の安定・改善

- ・体幹が自然に使われ、前かがみや崩れた姿勢が減り、学習に向かいやすくなる。

○集中力の維持・向上

- ・微細な動きが許容されることで、じっと座ることが苦手な児童でも集中が継続やすくなる。

○感覚調整の支援

- ・揺れや圧の刺激により、落ち着きにくさや多動傾向のある児童の自己調整を助ける。

③ 課題

○全児童に効果があるわけではない

- ・逆に揺れが気になり、集中が途切れる児童もいるため個別判断が必要。

○使用方法の指導が必要

- ・遊具のように扱ってしまうと学習の妨げになるため、正しい使い方の指導が欠かせない。

○管理・コスト面の負担

- ・数の確保、破損時の対応、衛生管理など学校側の負担が増える。

3. 校内研と連動した研修会への参加について

① 研修内容「沖縄県情緒障害教育研究会 第10回研究大会」

○子どもの行動は必ず変えることができる。

子どもの行動を増やすことができ、減らすこともできる。行動が増えることを「強化」といい、行動を増やすものを「強化子」という。また、行動が減ることを「弱化」といい、行動を減らすものを「弱化子」という。

例) 強化

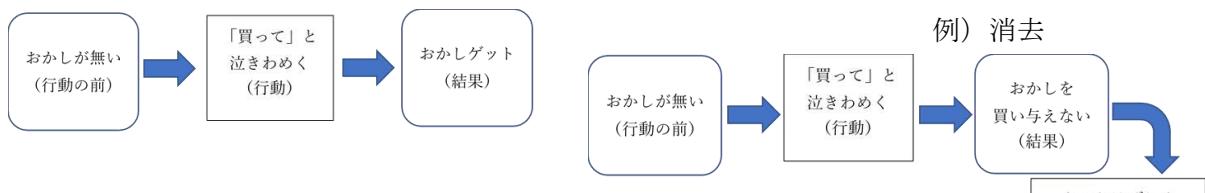


例) 弱化



子どもの行動には目的がある。しかし、行動の結果、何の変化も得られないと行動は減っていく。行動の結果、何の変化も得られないことを「消去」という。また、「消去」を行うと、その行動が爆発的に増える。このことを「消去バースト」という。

例) 子どもの行動の目的 (おかしを買ってほしい in デパート)



例) 消去

○子ども達を自立させ、自分の足で歩き出せるために

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| ① 何を目指すか (ゴール・方向性) | 例) テスト100点など |
| ② なぜやるのか (成長・体験・感情) | 例) 自分の成長のため、
学ぶことを楽しむためなど |
| ③ どうやるのか (方法・ツール・順番) | 例) 宿題、計算練習など |

もっとはげしく
「買って」と
泣きわめく
(消去バースト)

教師は、①～③を伝えることが大切であるが、②を伝えないことが多い。①と③しか伝えない。

② 資質向上に関して

これまでの子どもに対する見方や見取りとは別の視点を学ぶことで、子どもの見方や見取りが向上した。また、子どもになぜ勉強するのか、なぜ生きるのかなどの、なぜやるのかという観点を入れた授業や学級経営をする必要性が分かった。

I 校内研での取り組み

1 研究テーマ 「自立した学習者」を育む指導の工夫

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の取り組み～

2 実践内容

(1) 「自立した学習者育成を支える4つのポイント」を意識した「学級づくり」

・理論研修・書籍の紹介（講師：田場教諭）及び年間を通した実践

(2) 先進校参観等による授業改善の推進

①令和7年度文部科学省「リーディングDXスクール事業」指定校公開授業及び公開研究会参加（嘉手納町立嘉手納中学校）

②令和7年度沖縄県生活科・総合的な学習教育研究会 秋季公開授業研究会参加（浦添市立前田小学校）

・子どもたちのより主体的で対話的で深い学びの実現に向けた単元デザイン及び「個別最適な学び」や「協働的な学び」を具現化する授業づくりを参観した。参観後は各学年へ波及させ、各教科で1人1台端末を適宜取り入れたり、子どもが学びへ向かう環境づくりを意識したりすることにより、多様な子どもたち一人ひとりの良い点や可能性が見出されるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な授業づくりの向上に努めた。7月以降、各教科での取り組みを強化し、市内幼小中連携授業や1人1授業、及び12月の島尻教育事務所指導主事派遣授業等で各方面から指導助言をいただきながら実践を重ねた。

【成果及び課題】

○隔週月曜日の週時程内に「学級づくり」の時間を設定するとともに、学級活動の時間や帰りの会等を利用し、本校独自の年間計画及び児童の実態に沿った「学級づくり」を進めたことにより、「自己存在感の感受」や「共感的な人間関係の育成」及び「安全・安心な風土の醸成」に繋がった。QUテスト(2回目)の「学校生活満足群」の結果も全国平均42.5%と比較し、62.2%と高い水準であった。

○沖縄県学習到達度調査児童質問紙(11月実施、対象4・5・6年)の結果によると「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」について89%、「分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することがよくできる。」について、81.6%、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」について81.2%、「ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」について81.6%「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」について87.4%の児童が肯定的な回答をした。

▲学年分の同書籍がなく、コピーして使っていた。すぐ使えるように電子データでの共有等も必要であった。

▲一人一台端末を取り入れる場面でネット環境の不具合や個別対応等、担任1人での対応が厳しいことがあった。

II 特別支援教育の充実

1 目的

個々の教育的ニーズの把握と教育的支援の充実を図る。

(1) 「読みのアセスメント・指導パッケージ」の活用

- ・特別支援学級在籍児童に対し、「特殊音節」に焦点を当て、文字や語句を正しく読んだり、書いたり、なめらかに読んだりする指導を行った。

【成果と課題】

○「き」と「さ」のように形態的に似た文字を読み間違える児童が減少しつつある。

○視覚化や動作化を通じた音節構造のルールを明確にしたため、児童が楽しみながら取り組み、個々のレベルに応じた「読み」の流暢性に繋がった。

▲パッケージが1つしかなく、同時に多教室で実施することが難しいことがあった。

▲通級指導教室対象児童への実施も次年度必要である。

(2) 「エンジョイボッチャ」の活用

- ・4学年の総合的な学習「福祉」のテーマで学習を広げたところ、「障害の有無や年齢、体格、運動能力に関わらずだれもが対等に競い合えるスポーツを体験し、校内に広めたい。」と学年からの声が挙がり活用した。総合的な学習のみならず、学級活動や休み時間等に活用し、他学年も実施した。

- ・特別支援学級における自立活動や学級活動で活用した。

【成果と課題】

○障害がある人がスポーツを楽しむための工夫を知り、自分とは異なる状況にある他者を想像したり、思いやったりと多様性について理解を深めること児童が増えた。

○チーム内での相談や励まし合いなどが生まれ、児童同士のコミュニケーションが深まるとともに、運動が得意な子も苦手な子も同じルールで真剣に勝負する過程を通して、公平性と共生が育まれた。

○支援学級では、得点を「かけ算とたし算」を使い合計点を導き出すよう他教科とも関連させることができた。



III 体力向上に向けた取り組み

1 目的

運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指す。

(1) 学習環境の充実

- ・「体つくり運動」や「かけっこ・リレー」、「ネット型ゲーム」等では、高さの違う複数のパイロン等を活用し、各学年の発達段階や運動能力また作戦に合わせてコート等の大きさやコースを変更し、児童それぞれが体を動かす楽しさやできた時の喜びを味わえるようにした。また、「1校1運動」の取り組みでもある「校内持久走大会」に向けても1月下旬からコースを設置し、児童が見通しを持って取り組めるようにしている。
- ・児童相互で役割を担い、協力して活動が行えるようコート設置や審判団等で必要な用具(パイロンや得点板等)を揃えた。

(2) 日常的に運動に親しむ環境づくり

- ・休み時間等に気軽に運動に取り組めるよう、サイズの違う一輪車や長さの違う複数本の縄跳び用の縄を揃えた。

【成果と課題】

- 児童同士でコースやコートの大きさを話し合い、パイロン等を設置していくことで、児童にとって見通しを持って学習活動等を選んだり、挑戦できたりするような機会や環境づくりを、多く提供できた。
- 跳べる回数を増やすことのみを目的とせず、回し手の回す速さ、入る時の声掛けのタイミング、苦手な子が跳びやすい位置の工夫等、共通の目的達成に向け何度も挑戦することによって、運動への意欲が向上する子が見られた。
- サイズの適合化を図り身体的なハードルを下げることで、重心のコントロールが容易になり、成功体験を積み重ねることで、運動への安全確保及び運動意欲の向上が図られた。

▲一輪車に乗れるスペースが狭く、更なる安全な場所の確保が必要。

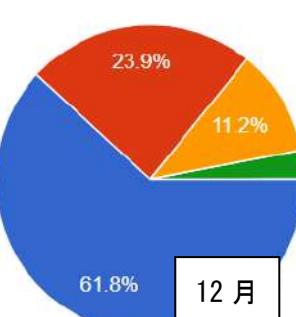
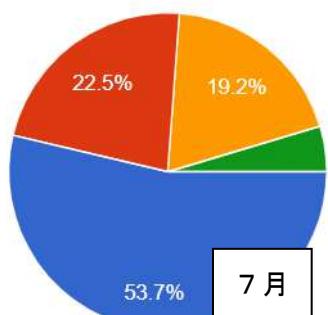


タイトル : 「一人一人を大切にした教育活動」

1 体力向上推進・一校一運動

(1) ケンパー運動・短縄跳び(ジャンピングボード)・長縄跳び

主体的に運動に親しむ児童が少ないので、環境を整えた。

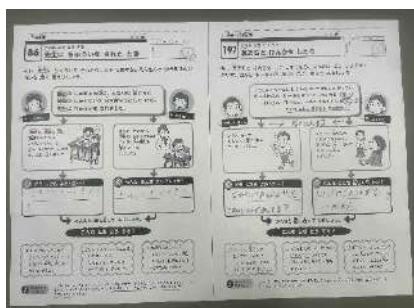


「運動や外遊びなど、すすんで体を動かしている。」の質問に「よくあてはまる」と回答した児童が 53.7%から 61.8%に増加した。



2 特別支援教育の充実

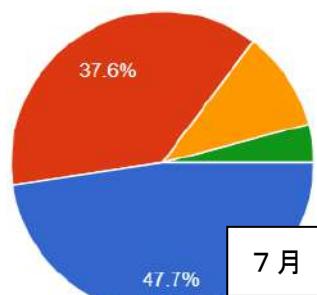
通級指導教室で、一人一人の課題(困り感)に関連するシートを使用した。



ワークシートの構成や活動の流れが分かりやすいので、子ども自身が自分の課題について具体的な対処方法を考えたり意識して行動したりすることにつながった。

3 自己肯定感を高める掲示

みなみっ子の様々な活躍や得意なことを掲示し、多くの人に紹介する機会を増やした。



「自分のよいところがわかる。」の質問に「よくあてはまる」と回答した児童が 47.7%から 52.9%に増加した。



4 算数教材「時刻カルタ」

時計の読み方を楽しみながら身につけるために作成した。

休み時間に進んで遊ぶ児童もいて、時計を正確に素早く読むことができる児童が増えた。



1. 実践事項「主体的に学ぶ自立した学習者の育成」

(1) 校内研修

「主体的に学ぶ自立した学習者の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを通して～」

(2) 星本を活用した特別支援教育の充実

(3) 高校入試に向けて

2. 実践内容

(1) 校内研修

ICT（1人1台端末）を学習基盤として活用し、多様な児童生徒個々の良い点や可能性が見いだせるよう、教材や学習時間、学習方法などを柔軟に提供したり、児童生徒自ら学習が最適となるよう調整したりする「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に焦点をあて研究してきた。

①一人一研の実践（うち1回は主事招聘授業）を行う。

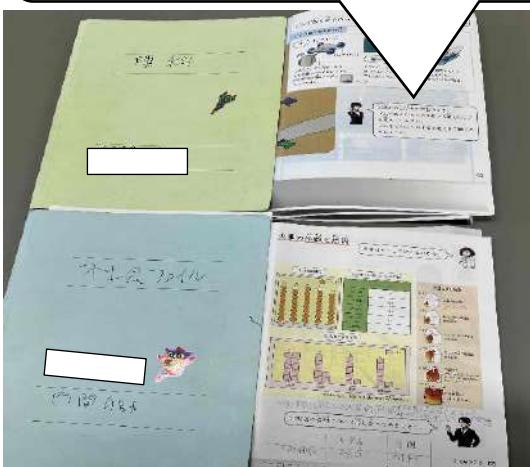
毎月火曜日の4校時は、校内研修の日とする。

②積極的に授業参観を行い、発達段階の違いや校種間を超えた互いの学ぶ機会とする。

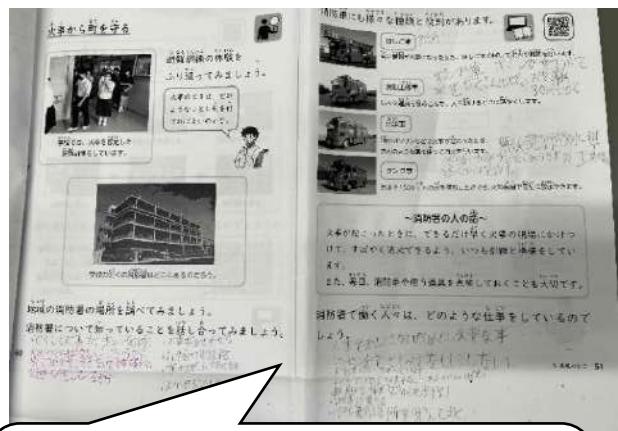
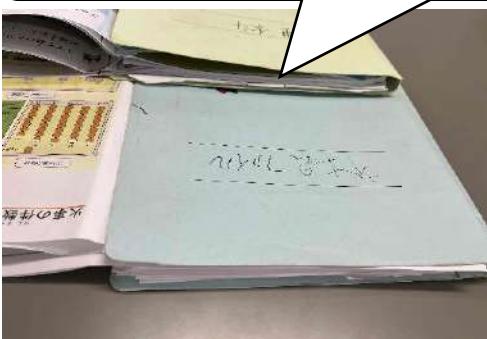
(2) 星本を活用した特別支援教育の充実

特別支援学級の生徒（中1）に対し、高校入試を見据えた指導として星本の社会と理科を取り寄せ、学習指導を行っている。

学習の積み重ねが実感できるように
ワークシートをファイリング。



綴られたワークシートの量に、
日々の努力の様子が伝わる。



記入する文字が丁寧になり、字数も多く書けるように。文字量と比例して、生徒本人の学習に対する集中力や満足度が高まっているように見受けられる。



担任や教科担任の先生と、じっくりと確認や
意思表示をさせながら、学習を進める。

(3) 高校入試に向けて

中学校3年生の高校入試対策

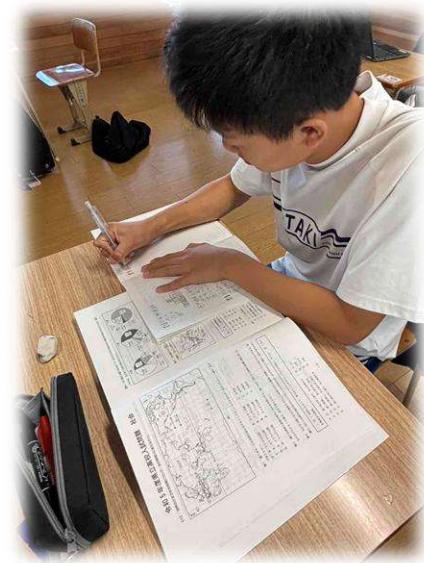
「2026年度 沖縄県 県立高校入試問題

最新過去問題集 誠伸社入試情報センター」

のリスニングCD、二次元コード、詳しい解答・

解説付きを取り寄せて活用。

毎年同じもの取り寄せているため、前年度までの過去問題も活用しながら、中学の学習の総まとめと入試対策を行っている。



生徒自ら主体的に、放課後に過去問に取り組む学習時間を設けたり、教え合ったりする様子が見られる。また、教師が専門教科に限らず、放課後の学習を支援する場面も多く見られ、学校全体で中学3年生のサポート体制ができている。

成果

- ①「個別最適な学び」「協働的な学び」に焦点をあて、児童生徒が自ら学習方法を選択する場面や少人数ながらも協働的に学ぶ場面をつくり、全員が一人一研を実践することで、今年度の研究テーマの理解を深めることができた。
- ②学習の足跡を残しながら、星本の学習に取り組むことで、学習意欲を高めることができつつある。また、小学部・中学部とも、自立活動の研究授業を実践することができた。
- ③生徒が必要とする入試対策で、県の出題傾向に慣れ、自信をつけながら、主体的に学習し、学び合う雰囲気ができ、「主体的に学ぶ学習者」に近づきつつある。

課題

- ①自立した学習者の育成に関しては、今年度研究や実践を始めたばかりなので、今後より深い研修が必要である。
- ②学推の予算について、特に校内研でICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をテーマにしながら、他校の実践を学んだり、共有したりすることに活用することができなかった。

以上の成果と課題から、令和8年度は、校内研のテーマを主とした他校の実践を学び、その学びを全体に共有する時間を設け、その中で予算を計画的に活用したい。

園名 南城市立久高幼稚園	TEL : 098-948-3950
------------------------	---------------------------

1 実践事項

- ① 小・中学校・地域連携 ② 沖縄に関する絵本等の購入

タイトル ~地域の言葉「しまふとうば」を伝え合う活動を通して~

2 実践内容 及び 説明資料

- ① 「しまふとうば って なあに？」 少人数異年齢児学級 5月
<園児の実態>

登園の際に3人のこどもたちが「おはよう」と声を掛け合っている時に地域のおばあが通りかかり「おはよう」とあいさつを交わした。その後おばあの姿が見えなくなると「おばあたちがしゃべっている言葉ってわからないことが多いよね？」「うん！私もわからない」とこどもたちが話をしている。その後、登園してくるこどもたちにも聞いてみたが、「おばあたち同士で話しているのはわからない」「お母さんもわからない」と話す。そこで教師が「しまくとうば」で話すと大笑いし、「おもしろいけど なんて言ってるのかわからないよ～」と言う。そこでおばあ達が集まっている場所へ出かけることにした。

〈教師の願い〉

- ・こどもたちに地域の言葉も知つてもらいたいな。
- ・教師自身は本島南部出身で「しまくとうば」を少しは理解できるが、「久高の言葉って本島と同じかな？」という疑問もあり、こどもたちと一緒に学びたいな



A児「おばあちゃん、久高の言葉って本島とちがうの？」

「おばあちゃんは、方言でなんていうの？」

Nおばあ「おばあちゃんはそのまま『おばあ』でいいよ。『ふあーふあ』っていう言い方もあるよ。そしておじいちゃんは、『うふすー』っていうんだよ！」

Tおばあ「沖縄本島では、方言のことを『しまくとうば』っていうけど、久高では『しまふとうば』っていうんだよ」

B児「はーい！しまふとうば これからおしえてね」

○援助 ◆環境構成

◆おばあ達が集まる場所、日時等の確認 → こどもたちが連絡し訪問する

○おばあ達に聞きたいことを自分達で聞けるような雰囲気作り、時間の確保をする

② 「歌も歌ってみたいな♪」 少人数異年齢児学級 6月

おばあ達から「しまふとうば」を教えてもらった園児は「しまふとうばで歌を歌ってみたいな！」「何の曲にする？」と話し合った。自分たちの知っている曲や好きな曲、沖縄の歌をあげる子等様々で「むすんでひらいて」「赤田首里殿内」「ケセラセラ」・・・いろいろな案が出てきた。

まずは、歌ってみよう！と歌詞をアレンジしてみることにした。簡単な歌ならできるかも？！という年長児は歌詞の変換にチャレンジすることになった。

〈教師の願い〉

自分たちでどうしたら歌詞を「しまふとうば」に変換できるのか、色々な方法を試してほしいな

隣接する小中学校の先生達なら知っているかも？聞いてみよう



園長先生「しまふとうば」
知っていますか？

園長先生はうちなーぐちは聞いたことあるけど、「しまふとうば」はわからないな

小学校の先生もわからない

iPadで調べてみよう！



iPadでは、
海とか島のことは出ているよ！
「久高って神の島なんだ」と発見！！

なんて言うかは出てこないね。

○隣接する小中学校の先生方へ協力依頼 ◆iPadを活用する 沖縄に関する絵本

③ 「おばあ 歌詞をしまふとうばで 教えてちょうだい」 少人数異年齢児学級 6月

小中学校の先生に聞いたり、iPadで調べたりしてもでてこない。さてどうしよう「やっぱり、おばあに聞いてみよう！」という年中児の案から、おばあに相談することになった。

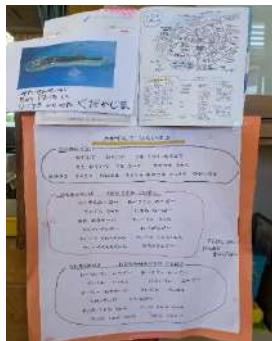
久高の言葉「しまふとうば」で歌いやすい曲、親しみのある曲のしまふとうば（久高バージョン）がある「むすんでひらいて♪」がいいな！ということになり、おばあに教えて頂いた。



♪むすんで ひらいて♪
 にーぎちみーばー あーきてい みーばー
 ていぐわ うっち にぎち みーばー
 また あきやーい ていーぐわ うっち
 うんていぐわやー わーびちどー
 ていーら くわらくわら ていーら くわらくわ
 ら

④ 「クラスのみんなで 歌ってみよう」 少人数異年齢児学級 6～7月

日本語、久高の「しまふとうば」、本島の「しまくとうば」を掲示し、学級全体で歌ったり、園だよりにて保護者へも「しまふとうば」やおばあ達との交流について掲載したりしたところ、保護者も「私もわからなかつた！」「面白いね。沖縄本島の言葉と違うね」との声もあり、保護者も一緒に「しまふとうば探し」に繋がった。



「ママも知らない
しまふとうば も
あるね。教えてね」

- 園だよりに「しまふとうばや歌について」掲載 保護者への声掛け
 ◆歌の歌詞（日本語・しまふとうば・しまくとうばバージョン）の掲示

⑤ 「もっとあつたよ しまふとうばと島の遊び」 少人数異年齢児学級 7～10月

定期的におばあ達が集まる「くがに家」へ訪問した際に、10時のおやつ（10時茶）で頂いた和え物の中に入っていた人参。「しまふとうばで何ていうのかな？」と教師がこども達へ尋ねたところ、誰もわからなかつたので、その場にいたおばあに教えてもらった。それからは園でも人参などが給食に出てくる時にクイズにすることもあり、親しみを感じる姿が見られた。

日本語	しまふとうば（久高）	しまくとうば（本島南部）
人参	あかでーくん	ちでーくに
大根	でーくん	でーくに
かぼちゃ	ちんくわ	なんくわ



沖縄の絵本にも しまくとうばが あるよ
くだかの しまふとうば では なんていうのかな？

※沖縄本島北部の発音と似ているものも多いが、南部と同じ表現をする言葉もある



おばあってすごいね！いろんなしまふとうばを知っているよ！
おばあ達は小さいとき、どんなことして遊んでいたの？

「アラマンダ」の花びらを鼻にのせて、かわいい鳥になったよ！
おばあがこの花は毒があるから、気をつけて遊んでねって！

年少さんに
も教えて
あげよう！

⑥ 「生活発表会で小中学生や先生、地域の人にも教えよう」

12月

生活発表会にて「しまふとうばバージョンの歌」を披露したいと話す子どもたち。久高島では、幼小中合同発表会なので小中学生や保護者だけでなく、地域の方も参観にいらっしゃる。そこで、しまふとうばを幼稚園生が大事にしたい言葉ということを伝え歌った。



しまふとうばで 歌います！
この歌は、島のおばあ達に 教えてもらいました。
久高の言葉を大事にしていきます！

3 成果

- 地域の高齢者との関わりも増えたことで、こどもたちも積極的に声をかけるようになった。
- 自分の住んでいる地域の古くから親しまれている島の言葉「しまふとうば」に興味関心をもち、関わることでさらに地域への愛着もつようになった。
- 小中学生や先生方も「しまふとうば」についてわからなかったとの声もあり、幼稚園生が小中学生に教えたことで、学校全体で「しまふとうば」について知る機会となった。

4 課題・改善策

- 久高ならではの言葉や遊びをもっと子どもたちと一緒に地域の方々に教えてもらいながら、しまふとうばを深めていくために普段の使っている言葉を「これは、しまふとうばでどういかな？」など問い合わせを深めていくようにする。

園名 南城市立玉城こども園	連絡先 TEL : 098-948-7511 E メール : tamagusuku-cc@iwakikai.net
-------------------------	--

1 実践事項 (幼児に育みたい力)

「身近な自然や地域素材に興味をもち、好奇心や探求心を育む」

～身近な人や自然、ものとの関わりの中で心動かされる体験を通して～

2 実践内容

- (1) 身近な自然・地域素材の活用を通して好奇心や探究心を育むための環境構成や援助の工夫について探っていく。
- (2) 保育を通して地域の豊かな自然や歴史・文化に触れる機会を設ける。
- (3) 園児が心動かされる体験ができるような環境構成の工夫や援助の仕方を探る。

3 説明資料

実践事例 (1) 「草花遊びから植物版画へ」

〈園児の姿〉

・園内の植物を使って色水遊びやままごとを楽しんでいる。遊びのなかで自然と植物と触れ合い、形・色・模様の違いや匂い・手触りの違いなどに気が付く子も多いが、興味が無い子は植物に全く触れようとしない。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○園内の植物を使って色水遊びやままごとの材料にして遊ぶため、子ども達にとって身近な遊びの材料になっている。	☆子ども達にも草花の特性を活かした遊びを楽しんでほしい。 ◎子どもが五感に触れて遊べるように、四季を感じる草花や果樹、沖縄の木を植樹し、園庭環境を充実させた。 ◎教室内に図鑑や虫眼鏡などの観察コーナーを準備することで、子ども達が疑問に感じたことなどをすぐ調べられるようにした。 ◎透明の容器やすり鉢、手袋、ビニール袋など様々な素材を用意し、様々な草花遊びが広がるようにした。 ◎さらに広がるように下記の遊びを子ども達と用意した。 ・色水遊び ・ジュース屋さん ・爪紅あそび ・花氷作り ・野菜、お花スタンプ ・版画 等 ☆植物に興味のない子ども達が進んで植物に触れ、観察する活動をし、興味を持つきっかけになってほしい。 ◎葉っぱを集めやすいよう一人一人袋を持ち、絵具も一緒に準備することで、葉の周りに自由に絵を描いたり、植物に色を付けたりと発展が
○園外でも草花を見つけるたびに、「この花はこども園にあるよね」「これは初めて見た花だ」など発見を楽しんでいる。	
○園庭で見つけた植物や木の実、石・砂などを自由に画用紙に貼り付け、作品を作っている。大きな葉っぱを貼って満足する子もいれば細かい葉を並べたりと個性が出ていた。制作を通して、植物に興味をもつようになった。	



○子ども達で植え付け・水やり・収穫を行ったオクラを使ってオクラスタンプをし、カラーカーボン紙を使った版画をしたものを使って敬老プレゼントのうちわ製作をした。



○「オクラって形かわいいね」「ねばねばして
るよ」「とげがちょっと刺さるときもあるよ」と
オクラスタンプを通しての発見を喜んでいた。

○カーボン版画では、強めに何度もこすらない
と色が出にくいことに気が付き「力足りないな
ら一緒にやってあげるよ」「何回もやらんと見
えない」とお互いに手伝ったり、アドバイスし
っている。

○祖父母にプレゼントをあげながら、「ここは
オクラスタンプしたよ」「小さい葉っぱが大変
だったんだよ」と説明する姿が見られた。

○丸い形の葉っぱを見つけた子が「これ2つ見
つけたら雪だるまみたいだよ」という気付きか
ら、植物と絵具を使った版画に取り組み始めた。

○これまでの経験から、使いたい植物を選ぶ際
も今まで以上に真剣に大きさや形を見たり、模
様を見比べて集めている。

○床に集めた植物を広げ、自由に版画を楽しん
でいる。特に何気なくスタンプしたものが「よ
く見たら○○に見える!」とそこから自分のイ
メージを形にしようと、様々な植物や空き容
器・段ボールを使って仕上げていった。



見えた。

◎前回の製作と比べて、更に葉っぱの形がはっ
きり見え、葉脈や厚みなどで違いが分かりやす
く、子ども達も夢中になって製作出来ていた。

◎オクラの断面を意識したことが無い子も多
く、断面に驚いていた。スタンプをすることで断
面もよく見えるため、いろいろな野菜のスタン
プを見比べる機会を作りたい。

◎様々な色を準備することで、紙いっぱい空白
が無くなるほど、夢中になっていた。

☆カーボン版画で色が出にくい所は、保育教諭
が一緒に手を添えている。版画バレンだと力が
入れにくいう�だったので、こどもの握れるサ
イズの積み木を準備し、床で行っている。

◎子ども達の制作風景や作り順をドキュメンテ
ーションにて掲示することで、保護者に共有し
ている。

☆一人の気付きから版画を始めて、それ
を見た友達も「やってみたい」と真似て、クラス
全体で取り組むきっかけになった。

☆保育教諭も一緒に植物を探し、「どんな絵をつ
くろうかな」と問いかけたり、「こんな形の葉
っぱ見つけた!」という子どもの喜びや驚きに共
感することで、植物探しを楽しめるようにして
いる。

◎植物や廃材や容器を選びやすいよう床に広げ
て置く。絵具を平皿に準備し、色が探しやすく塗
りやすい環境にする。



☆子どもの気付きを大切に、なぜ絵具が付く葉・
付かない葉があるのか、他の葉っぱと比べるき
っかけを作る。

○版画製作を通して、「この葉っぱは絵具を付けてもはじくよ」「ふわふわだからだ」と形だけでなく、性質の違いを気付いていた。

◎自分の作品を友達に紹介する時間を設ける。全員の作品を部屋に展示する。

〈考察〉

・普段の園生活の中に身近にある植物を遊びだけでなく製作に活用していくことで、葉っぱの形や性質、匂いなど様々な違いに目を向けるきっかけになり、子どもが自ら発見することを楽しむことが出来ていた。

実践事例（2）「カンカラ三線弾いてみたい！」

〈園児の姿〉

・卒園児が製作したカンカラ三線を見て、前年度5歳児が演奏していたことに憧れをもっていた園児が「やってみたい」と興味を持っている。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○卒園児が製作した三線を見て、「やってみたい」「どうやって弾くの？」と興味をもっている。	☆生の演奏を聴くことで、沖縄の楽器にも興味をもってほしいとの願いから、講師を呼んで園内研修で三線や組踊の唱えについて学び、子ども達の前で披露している。  
○「わたしも作ってみたい」「三線足りない」と興味を示し、保育教諭や友達と一緒にカンカラ三線作りに取り組み始めた。	○保育室に三線や和太鼓などを置き、子ども達がいつでも遊べるようにした。 ○職員で話し合い、カンカラ三線が作れるように材料を用意した。
○完成した三線を使って自分なりに演奏することを楽しんでいる。 ○簡単な曲が弾けるようになり、「みんなの前で弾きたい」という声から、祖父母お招き会で踊りや三線、組踊の唱えを披露している。	☆子ども達の姿から、できるだけ自分達で三線作りができるように、見守り、必要に応じて援助した。 ○遊びの振り返りで、カンカラ三線を発表する場を設けた。
○12月の生活運動発表会で、エイサーの前に年長児全員で組踊の唱えで入場し、三線を弾きながら歌を歌っている。 ○三線を弾く年長児に憧れをもった年中児の	○職員で話し合い、披露する場を設けていく。 ・クラスだけでなく、全体の集会の時間や保護者の参加する行事で披露している。 ☆年長児の三線を弾く姿を見て、年中クラスが興味をもってきているので、挑戦してほしい。 ○興味をもっている子は年長の部屋に行き、三線を実際に触ったり、弾き方を教えてもらって

「やってみたい」という声から、年長児に三線を教えてもらっている。

いる。

〈考察〉

- ・前年度の年長児が三線を弾いている姿に憧れを持っていた進級児も多いため、三線を見てすぐに「やってみたかったんだ」「前の年長さんかっこよかったよね」と興味もっていた。自分たちで三線を作ることで音の出る仕組みに興味をもったり色塗りに拘って作ったりしたため、愛着をもって大切に弾く姿が見られた。
- ・三線を通して踊りや民謡に興味をもち、歌やダンスに苦手意識がある子も楽しんで参加していた。クラスだけでなく、全園児の前や行事で保護者の前で披露することで、自分に自信を持って「出来た」ことへの達成感を感じることが出来ていた。

実践事例（3）「遊び込める園庭作り」

〈園児の姿〉

- ・「お外に行きたい」と毎日園庭遊びを始めるが、自分の好きな遊び・好きな場所を探しきれなかったり、遊びに飽きてしまったりと、遊びを終えてぼーっと過ごすことがある。遊具によっては年少児が「怖いから出来ない」となかなか遊びこめないものがある。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○園庭で過ごしていても、遊び込めずぼーっとしてしまうことがある。	☆遊びを探せない・飽きることを解決するため、園庭の環境の見直し・工夫が必要。子ども達にたくさん遊びこんでほしい。
○固定遊具で登る方法がロープネットかクライミングウォールしかないため、年少児や小柄な子は滑り台で遊びたくても怖がって挑戦出来ない。	○固定遊具の滑り台を滑りたくても、登る方法が限られている。登る方法を増やすため、子ども達と一緒に横にタイヤと砂を積み、タイヤ階段を作った。
○タイヤ階段が出来たことで、「ここだったら登れるよ」「登るのも降りるのも出来る」と全身を使って懸命に登っている。	○長く遊べる環境をつくることで、飽きてしまうため、都度砂を足している。
○段差に座って、テーブルのように皿を広げてままごとを楽しんでいる。	○階段でままごと遊びをする子が出てきたため、近くに砂場セットを移動し、遊び込めるようにした。
	☆ツリーハウスが出来たころは、行列になるほど遊ぶ子が多かったが、段々と遊ばなくなってしまった。何か遊ぶきっかけが欲しい。
○ツリーハウスに始めの頃は興味をもって、遊んでいたが、「飽きてきた」と遊ぶことが減ってきた。	○ツリーハウスのペンキ塗りの機会を設けた。子ども達だけでなく、保護者も一緒に作業することでお互いにコミュニケーションを取りながら楽しんで作業していた。
○ツリーハウスの色塗りで、好きな色を使って筆やハケを使って全身汚れながら夢中になって取り組んでいる。「〇〇のお母さん色塗り上手」「こっちも塗ってちょうどいい」と他の保護者とも関わりながら、完成を喜んでいた。	○自分たちで色塗りして作りあげたことから、お気に入りの場所になった。



○自分たちで色塗りしたため、「ここは私が塗ったから好きな場所なんだ」「きれいな色になったからお家みたい」と愛着が沸き、お気に入りの場所になって何度も遊んだり、ゆったりと過ごす場所になった。



○ベンチとタイヤを組み合わせて、シーソーに見立てて遊んでいるが「1個しかないからあまり遊べない」と訴えている。

☆自分たちで考えて、ある物を組み合わせて遊んでいるが、1度に遊べる人数に限りがあるので、数を増やして目一杯遊んでほしい。

○「新しい遊具が増えた！」と喜んでシーソーやバランスボードで遊んでいる。何人まで乗れるか試したり、何秒バランスを保っていられるか競ったりと、様々な遊びを楽しんでいる。



○年少児は今までベンチのシーソーを怖がり遊ぶことが出来なかったが、シーソーにすぐに挑戦し、「シーソー楽しい」と喜んでいた。「教えてあげるよ」と自然と異年齢で関わり遊ぶ姿が多く見られるようになった。

◎古タイヤと木の板を繋いでシーソーを作成している。



◎短い板とタイヤを組み合わせることで、一人用のバランスボードを作成している。



〈考察〉

・子ども達の普段の遊びの姿から、園庭の環境の見直しをしていった。子ども達も一緒に作業し作りあげていくことで、「自分もやったんだよ」と愛着を持って遊具や道具と関わるようになり、遊びこむ姿が見られるようになった。

4 成果（○）、課題・改善策（☆）

○子ども達の「やってみたい」「やりたい」から遊びが始まり、自分たちで考え作りあげていくことで、お互いに意見を出し合い、協力しあう姿が見られた。普段から子どもの声や気付きに耳を傾け、環境を見直しや援助の工夫の大切さを改めて実感した。

○子ども達の声を取り入れながら地域素材や地域行事を活かした遊びや活動を進めていくことで、子ども達が意欲的に参加し、話し合いを重ねながら主体的に遊びや活動を展開していくことができた。

○普段から園庭の植物を使って色水やままごと遊びを楽しむ姿が良く見られたが、製作（スタンプ・版画）に活用していくことで、葉っぱの形状や葉脈、硬さなど、更に細かく観察し比べる姿が見られるようになった。

☆子ども一人一人の興味関心や友達との関わりなど、幼児理解を深めて、一人一人が自己発揮できるような環境構成や援助の工夫を取り入れ、友達と関わりをもちながら、より深い人間関係を築き、主体的な遊びが展開できるように保育・教育の質の向上に努めていく。

園名 知念こども園	連絡先 TEL: 098-948-1751 Eメール: chinenkodomo@chinenhukusikai.net
------------------	---

1 実践事項

- ・地域の自然の豊かさを感じながら、仲間と共に好奇心、探求心、五感を育む
～「自然の宝がいっぱい！！宝で遊ぶの楽しいな！！」～ 4歳児 15名

2 実践内容

- ・地域の散歩を楽しみながら、地域の自然の豊かさを感じたり、季節を感じさせる環境構成・援助の工夫を図る
- ・発見した自然物との関りや考え、つぶやきに保育教諭も共鳴しながら五感の発達につなげていく。
- ・園児が試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的に向かって活動できる時間を保障し、園児の声を大切にしながら援助していく。

3 説明資料

- ① ・地域の散歩を楽しみながら、地域の自然の豊かさを感じたり、季節を感じさせる環境構成・援助の工夫を図る

11月上旬

3歳児が散歩でいろんな葉っぱや月桃の実を拾ってくる。3歳児の部屋は、合同保育の部屋にもなっていたので、このコーナーを見た4歳児のこども達が興味を示し、落ち葉や実などを使って、製作あそびなどを楽しむ姿があった。



10の姿のつながり

[思考力の芽生え][自然との関わり、生命尊重]



11月11日（火）『4歳児クラス保育ミーティング』

3歳児クラスの散歩で月桃の実をたくさん取ってきたこと。この時期だから見られるきれいな月桃の実の色や匂いなど、当たり前のようにあった月桃のすばらしさを4歳児クラスの担任と共有した。4歳児クラスのこども達にも身近にある月桃のおもしろさ、すばらしさをたくさん感じてほしい。そして五感の中の嗅覚を活用して遊ぶことはできないかと話し合った。

- ①家を作りたいと言っている子がいる。
 - ②グループ活動を通してお友達と考えたり、話し合ったり、協力したりしてほしい。
- ふたつのグループに分かれて、秋のもの（こども達は特に月桃に興味を持っているので月桃の葉や実）をつかって家づくりをする。3月までいろんな家づくりに発展してもおもしろいかもということで、家の土台としてテントを準備してそこからこども達がどんな家にするかを考えてもらおうという事になった。

11月13日(木)【秋探しに行ってみよう!】



以前、散歩で取ってきた月桃の実が、開いて種が見えてきていることなどを発見!!
袋に入れたままの実は開いていなかったことも、不思議~!
なんでだろう~。

「みんな秋って知ってる?」と聞くと「知ってるよ。」「葉っぱが黄色くなったり赤くなったり青くなったりするよ」との答え。「じゃ、何で葉っぱが黄色くなったりするのかな?」と聞くと、

「時間がたつから~」とこども達なりの考えが出てきた。いろいろこども達の言葉を引き出したところで秋探しの散歩に出発!

【秋がいっぱい!】

散歩に行くと、緑の多い散歩道で月桃の実の赤い色はひときわ目立つ為、こども達はすぐに月桃の実を見つける。二つのグループに分かれてそれぞれ大きなビニール袋に月桃の実や葉っぱなどを次々に入れていく。部落内を歩くと、いろんなところに月桃があり、葉っぱや赤い実を取って帰ることができた。

もっとたくさん集めよう~



月桃の実みつけた!!



10の姿のつながり

[思考力の芽生え]

[自然との関わり、生命尊重]

[言葉による伝え合い]

見て!!ここにもいっぱいあるよ~!

ちょっと色がちがうのもある~!

② 発見した自然物との関りや考え、つぶやきに保育教諭も共鳴しながら五感の発達につなげていく。

11月13日(木) 【いっぱい取ってきたよ！】

園に戻ってくると、白い模造紙の上に2グループに分かれて取ってきたものを並べてみる。並べながら、「同じ仲間で分けよう」ということになる。こども達は匂いも楽しみながら仲間分けをしていく。仲間分けをしているうちに、箱を持ってきて実から種を出し始める。種をたくさん入れた箱を揺らすと「なんか音がする」「なんか匂いもするよ」と気づく子が出てきた。



転がしたら、
なんか音がす
る！



いい匂いがする～！

匂いもす
る！

【月桃の実の種を取ったら船みたい！】

種を出した後の赤い実の部分を見てSさんが「舟みたい！」と言う。「ほんとだ～。舟みたい」と他のこども達も言い始める。そこで保育者が「じゃ、水に浮かべてみる？」と提案すると「やってみた～い！」と言い、すぐに準備が始まる。Rくんが廃材コーナーから透明な容器を持ってきて水を入れる。赤い実を浮かべると「浮かんだ～舟みたい～」と喜ぶこども達。モクマオウの実を人に見立てて船に乗せて喜んでいるRくん。他の子達も集まってきて一緒に遊ぶ姿があった。



浮かんだよ～！！



舟に人を乗せてみよう！



もっといっぱい乗せよう～！

《保育者の援助》

こども達が2グループに分かれて、仲間分けをしたものをこども達にも分かりやすく部屋に置いておくことにした。部屋に置くことで、とてもいい匂いがして、部屋を通っていく5歳児のこども達も「なんか匂いがする」「ムーチーの匂いがする」と言っていた。こども達は月桃の葉のことを「ムーチーの葉っぱ」と言っている。こども達の中でムーチーのイメージが強いが、「月桃という名前があるんだよ」と伝えると「月桃」と言う子も増えてきた。

10の姿のつながり

[思考力の芽生え]

[自然との関わり、生命尊重]

[言葉による伝え合い]

[豊かな感性と表現]



- ③ 園児が試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的に向かって活動できる時間を保障し、園児の声を大切にしながら援助していく。

11月14日（金）

【みんなで取ってきたものでお家づくりしよう！】

部屋にテントをたてて、グループに分かれて家づくりをすることになった。まずは、どんなお家を作りたいか。何が必要かなどを話し合うことにした。

こども達からは「ライトをつけたい」「扇風機もつけたい」「テレビも欲しい」など、いろんな意見が出てくる。でも肝心な壁が必要という事が出てこない。保育者が「みんなのお家は、お外から丸見えなの？」と聞くと「違うよ。ちゃんと壁があるもん」「あ、壁を作らないといけない」とやっと出てくる。「壁はどうやって作ろうか？」「大きい段ボールがいる」となり、みんなで段ボールを取りに行き、そこから家づくりが始まる。



家には壁があるよ！
段ボールで作ってみよう。



ここ、ガムテープ貼るから
上を押さえてよ～！



段ボール、うまく
くつつかないな～



月桃の実をいっぱい
いかざりたい！

11月18日（火）

【葉っぱのカーテン！】

段ボールの高さが足りなくて、外からお家が見えててしまうので、「どうしよう」ということになる。「カーテンつけたらいいんじゃない？」というアイデアが出てきて、葉っぱに紐を通していった女の子が「葉っぱのカーテンみたい」と言ったところから葉っぱのカーテン作りが始まった。月桃の葉が足りないという事で男の子3名が「もっとたくさん葉っぱ取って来るよ」と言う。カーテン作りをする子と葉っぱ取りに行く子に分かれることになった。



葉っぱのカーテンみたい！



葉っぱは、破れたりするから優しくするんだよ



葉っぱのカーテンをつけると、なんかいい匂いもする。

10の姿つながり

【思考力の芽生え】【自然との関わり、生命尊重】

【言葉による伝え合い】【豊かな感性と表現】

11月19日（水）

【いろんな音がする！】

家づくりをする中で男の子たちが、いろんな容器に入れて音を楽しむ子が出てきた。容器も様々、中に入れるのも実や種など入れては音の違いを楽しんでいた。



僕はこの箱に、種をいっぱい入れてみよう！



全部入れてみる！



どんな音がするかな～！？



ペットボトルに入れ
てみよう！

〈子どもの姿〉

はじめは、箱の中に入れて音遊びをしていたが、「中身が見える方がいい」ということで、中身の見える透明の容器を使うようになった。

【水を入れてみよう！】

遊びがどんどん広がって、音遊びをしている子がペットボトルに入れたことから、「水を入れてみたらどうなるか」ということになった。

〈子どもの姿〉

月桃の実だけ、実と種と一緒に、種だけなどいろいろ試してみる。



色が違う！
実だけのものは白くなったよ！



葉っぱだけのも
作ってみよう！



匂いも
ちょっと違うよ～

《保育者の環境構成、援助》

ペットボトルでやってみようと、やり始めた数名のこども達は、水を入れて振ったりして何か変化があるかをよく見ていた。色が変化したり、それぞれの匂いが微妙に違うことなどに気づく。それを、他の子達に振り返りで伝えたり、誰でも見ることができるよう廊下に

コーナーを作り、張り出してみた。すると他のクラスの子が見たり、匂いをかいだりする姿が見られた。



11月21日（金）

【月桃のお茶づくり！】

ある日のお集まりで保育者が「月桃の葉っぱとか実で、お茶が作れるんだって」という話をすると、「へえ～お茶ができるんだ」「そうなんだ」という反応のこども達。保育者が「お茶を作つてみる？」と提案すると「やってみたい」「やりたい」「飲んでみたい」と言い、お茶づくりをすることに決まった。

【月桃のお茶づくりスタート】

お茶を作るためには葉っぱや実を乾燥させなければいけない。お家づくりをしている2グループで葉っぱのお茶グループと実のお茶グループに分かれて作業をすることにした。

〈葉っぱのお茶グループ〉

- ・葉っぱを洗い、拭いてからハサミで細かく切っていく

〈実のお茶グループ〉

- ・実から種を出す作業をする



- ・それぞれのグループで作業し終わった物を、天日干していった。

12月10日（水）

【お茶の煮出してみよう】

《保育者の援助》

お茶作りをする前の集まりで「月桃のお茶ってどんな味と色がすると思う」と問いかけて、ワクワク感を高めたり、匂いからの味や色のイメージを考えさせる。「茶色」「緑色」「苦い」「酸っぱい」「甘い」等沢山の考えがでた。なかには「緑」→「マスカットの匂い」→「甘い」と色と匂いと味をつなげての考えを話す子もいた。



どんな匂いがするかな？

すごい匂いだなー！

お茶の匂いはどんなかな？



うあー！！
にがい！！



10の姿のつながり
[思考力の芽生え]
[自然との関わり、生命尊重]
[言葉による伝え合い]
[協同性]

4 成果

・月桃の実や葉に出会えたことをきっかけに、子ども達が自ら自然に目を向け、五感を働かせながら遊びを深めていく姿が見られた。散歩の中で見つけた月桃の実を「秋」の物として集めることから始まり、「いい匂いがする」「色が違う」と、子ども達は感じたことを自分の言葉で表現していた。

担任は「秋の自然のおもしろさを感じてほしい」という願いをもちながらも、答えを与えるものでなく、子ども達同士が気づきや発見を共有できる場を大切にしてきた。その中で生まれた子ども達の言葉やつぶやきが遊びの出発点となり、興味や関心がクラス全体へと広がっていった。また、子ども達の発想や思いを否定せずに受け止める関りを積み重ねたことで、「やってみたい」「もっと集めたい」と主体的に行動する姿が育っていた。種を出して音を楽しんだり、水に入れて変化を確かめたり、実を舟にし見立てて遊んだりと、子ども達の気づきから遊びが次々と発展していく様子が見られた。さらに友だちと相談し、協力しながら一つのものを作り上げていく姿が見られ、関りの深まりも感じられた。

・自然に触れながら楽しむ経験を沢山することで、子ども達の散歩での楽しみ方が変化したのも大きな成果である。例えば葉っぱを踏んだ音や風で葉と葉がこする音、匂い、鳥の鳴き声等、今まで子ども達からは出てこなかった、五感を働かせながらの気づきが増えたこと。花や実などへの興味、関心が強くなり、名前を知りたがったり、触れて大丈夫なものなのか等確認もしながら楽しむようになった事等、好奇心や探求心の育ち、思考力の育ち、五感の育ちに大きくつながった。

5 課題

子ども達は匂いや音、色の違いなど多くの気づきを得ていたが、そこから「なぜだろう」「もっと知りたい」と問い合わせを持ち、探求を深めていく過程は十分とは言えなかった。

今後は、子ども達の気づきがより深い学びへつながるよう、図鑑や資料、素材の工夫など、好奇心を広げるための環境設定をさらに充実させていく必要があると感じている。また、子どもの声や思いを大切にする一方で、担任としての願いやねらいをどのように遊びの中で取りいれていくか、そのバランスの取り方も課題である。

子どもの主体性を尊重しながら、より豊かな学びへつなげていくために、どの場面でどのような援助を行うのかを見極め、関り方を工夫していきたい。

園名 佐敷こども園	連絡先 TEL: 098-947-1875
---------------------	--------------------------

1 実践事項

『園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫』

2 実践内容

- ・興味関心を抱いたことに存分に取り組む環境と時間を確保する
- ・経験したことを再現し、遊びが広がるよう活動の連續性に配慮する

3 資料説明

【エピソード1】

6月下旬。園に隣接するトトロの森ではセミの声が鳴り響き、虫捕りが盛んな時期。高い木の上にいるセミを捕りたく、少しでも高くとアスレチックの上に登る。しかしアスレチックがガタガタ動き壊れかけていることに気付く。高い所にいるセミを捕りたい気持ちから、アスレチック修繕が始まった。



ここあぶない！
あながあいている
ー！！

木が朽ちて細くなっていたり、穴が開いていたり、木が腐れていることに気付き、「園長先生に直してもらおう」と思いつく子ども達。「自分たちでできないかな」と保育教諭の言葉かけで、作業がスタートした。危険で取り換える必要な木に×印をつけ、紐をほどき、似たような木を集め。集めた木は長かったり短かったり、細すぎたり・・・なかなか思うような木が見つからず、気持も薄れはじめ、夏ならではの遊びが盛り上がり、集めた木は保育室に置いたままになっていた。



ながすぎたー



ぼくもやりたー



せんせーい トトロのもりにいこ♪

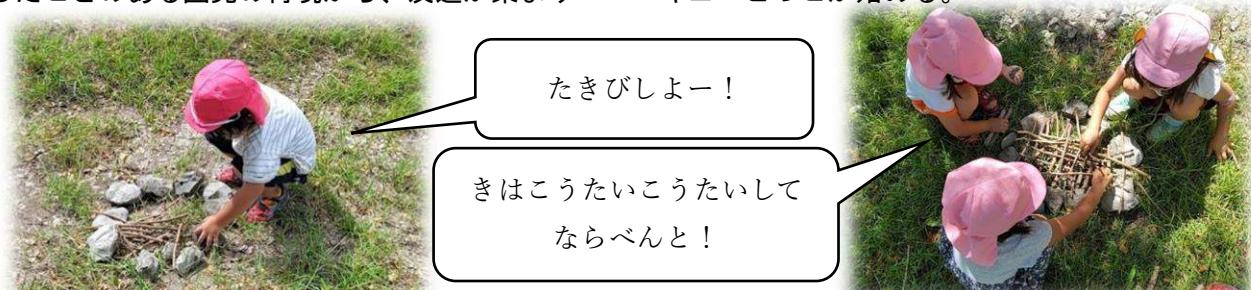
8月に入り、作業再開。初めてののこぎりに緊張しながらも、同じ長さに切り揃えることが出来た。切った木を早速試したく、給食時間ではあるが、取り付けに行くことになった。



園長先生と一緒に、紐を通して固定するという地道な作業を「みんなできょうりょくしよう」と表情も真剣。粘り強く取り組み完成させることができた。余った木はテントづくりへと発展した。

【エピソード 2】

休日に家族でキャンプをした園児が、園庭で焚火をしようと石や木の枝を並べていると、焚火を経験したことのある園児の再現から、友達が集まりバーベキューごっこが始める。



出来上がったバーベキューセットの周りに落ちていた石や葉っぱを肉やワインナーに見立て、バーベキューごっこが始まった。片付けの時間になんでももっと遊びたい様子。「お部屋でも出来たらいいね」と保育教諭が言葉をかけ気持ちを受けとめた。

翌日、昨日の続きをしたく登園するなり黙々と製作を始める。木の枝の代わりにチラシで細い棒をたくさん作り、肉を焼く金網が完成。食材の幅も広がりトウモロコシや串焼きづくりから、ピザ作りやアイス作りへと発展し、ごっこ遊びが広がった。



4 成果

子ども達の声から始まった修繕作業。共通のイメージや目的に向かい、十分な活動時間の確保が出来たことで、園児が試行錯誤しながら、一度冷めかけた活動も再開し大きな達成感と絆の深まりを得ることが出来た。また、日常生活の中で経験したことを再現した遊びでは、園庭と室内では環境や素材は違えども、素材を工夫することで遊びが継続でき、関連した遊びへと発展、遊びが広がった。

5 課題

こども達の心の動きや気づき、どのように遊びが展開していったのか、クラス内では共有し把握してきたが、他クラスの職員との振り返りや意見交換の機会を設けることが出来たら、多くの視点を反映させ、より援助の幅も広がったのではと課題が残る。

園名 南城市立大里こども園	連絡先 TEL : 098-945-2827 E メール : oozatokodomoen@city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項 (幼児に育みたい力)

「園児が主体的に遊びや生活を進める教育・保育活動」

～自立・協働・創造を育む～

【自立】 安定した情緒のもと、自分がしたいことを夢中になってじっくり取り組む力を育む。

【協働】 多様な人々との関わりを通して、互いの良さを認め合いながら協力したり、折り合いをつけたりしながら、遊びや生活をよりよくしていこうとする力を育む。

【創造】 自立・協働を通じて新しい楽しさを生み出し、創意工夫ができる力を育む。

2 実践内容 (具体的な取り組み)

- (1) 幼児理解を深めつつ、幼児の発達の特性を理解し、発達及び生活の連続性に配慮して教育・保育活動を展開する。「自立」
- (2) 園児が園生活や遊びを通して、様々な人と関わる中で自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら同じ目的に向かって取り組んでいけるよう環境構成や援助の工夫を図る。「協働」
- (3) 園生活の中で園児が試行錯誤しながらそれぞれの目的や共通の目的に向かってじっくり、ゆったりと活動する時間を保障し、想像豊かに表現できるよう援助する。「創造」
- (4) 幼児期において育みたい資質・能力を一体的に育み、「遊びこむ」経験を重ねることで主体的に探究できる力を小学校以降における「学びの基礎」となるよう環境構成と援助の工夫を図る。
- (5) 地域の歴史・文化・自然環境(木育を含む)を活かした教育・保育を通して自然や地域の良さを知り、大切にしていこうとする気持ちを育む。
- (6) 地域や家庭の子育てに寄り添い、安心して子育てができる環境を整え、様々な関係機関との連携を図り、地域・家庭の教育・保育力の向上に努める。
- (7) 幼小連携を通して双方の教育・保育の理解に努め、円滑な接続を図る。

3 説明資料

- (1) 安定した情緒の中、安心して過ごし、いろんなことを「やってみよう」とする。

①朝のあいさつ活動を自分から進んでやろうとする。「自立」



あいさつ標語をのぼりにしたりタスキにすることで、あいさつ活動の意欲や習慣化に繋がっている。



②自分がしたいことを夢中になってじっくり取り組む時間を保障する。



いろいろな素材を使って作りたいものを作り、じっくりと時間をかけて創る。

自分なりの表現をじっくり時間をかけて楽しむ。

(2) 友達と考えや力を合わせながら取り組んでいく活動。

① コンビニをつくろう。



友達と考えを伝えあいながらイメージを形にしていく。



友達とイメージを共有し、同じ目的に向かって協力しながら遊ぶ

「ここつかまえておくからガムテープでとめてね」

② 3歳児なりの言葉のやり取りを楽しみながら友達と遊ぶ楽しさを味わう。



外遊びで汚れてしまった帽子をごしごしひっかひかおせんたくごっこ。



ごっこ遊びを通してお友達とのやりとりを楽しむ。

(3) 試行錯誤しながら自分なりの表現を楽しんだり、新しいものを創りだす活動。



どうやったらシャボン玉ができるかなあ



どうやったら、ちゃんと染まるのかいろいろ実験を繰り返し楽しむ

【2月6日の観劇「花さかじいさん」を鑑賞することで育まれること】

- ・舞台ならではの音楽や照明、演出者の表情や動きなどからさまざまな刺激をうけ五感が磨かれる。
- ・物語の疑似体験を通して、登場人物の喜びや悲しみ、驚きなどを追体験し、心情を想像する力が養われ、豊かな表現力が育まれる。
- ・登場人物の立場になって考えることから、他者の気持ちを理解する力が育ち、コミュニケーションの基礎を身に着けることができる。

(4) 主題的に環境に関わり「遊びこむ」経験を重ねる。



身近な環境に関わり「なんだ
ろう？」と発見にわくわくし
ながら遊びに夢中。



「やさしくしてね」
「そっとだよ」と命の大切さと生き
物に対する関わり方を学んでいる。



「なんだろう」「これかな？」と
探求心を育み、知的好奇心が高
まっている。



友達と考えを出し合い
トイを使ってダイナミック
な遊びを楽しむ。



3歳児、あわあわ遊びから
三輪車の洗車ごっこに発展
ぴっかぴかにするぞ～



中に乗る人、押す人
役割を交代しながら遊ぶ楽しさ
を味わう。

(5) 自然物を保育に取り入れたり、地域の歴史や文化に触れたりする体験活動。



身近な自然(草花)を使って色水
遊びが実験に発展。
いろいろな素材(葉っぱ・木の実・
花など)で試し、色の違いの不思
議さを楽しむ。



さまざまな素材を使っての色
水遊びを通して、身近にある
ものを「染めてみよう」と言う
子どものつぶやきから染め物
実験が始まった。

令和8年2月5日に地域人材
を活用し、染め物体験を計画
フクギの実を使って絞り染め
の技法でハンカチを染める。

ちよう豆の花やサンニンの葉っぱ、
みかんの皮などを使って染め物に
チャレンジし、失敗を繰り返しながら
実験を楽しんできた。フクギはど
んな色に染まり、絞り染めの体験も
含めて子ども達の知的好奇心を高
めることに繋がるであろう。

②身近な自然物を使って表現遊びを楽しむ。



木の実や葉っぱを使ってリースやツリーを作ったり、版画を楽しんだ。

手作りの太鼓を持ち
地域伝統芸能のエイ
サーごっこを楽しむ

(6) 地域・家庭の教育・保育力の向上を図る。

①親子体験活動 年長組:11月15日(土)【ウォークラリーエコチャレンジ】

親子で地域を散策しながらゴミ拾いをして、地域をきれいにする気持ちよさを味わい、秋の自然を感じながら地域の施設や文化財を知る機会になった。



②子育て広場・親子通園 (関係機関と連携し地域の子育て支援を行う)

地域子育て支援拠点事業にこにこ広場と親子通園事業の親子支援ルームの運営を一体的な取り組みとして実施。



(7) 幼小連携の活動について年間計画の交流以外に児童生徒の主体性からうまれた活動を紹介



大里南小学校6年生からの提案で、大里こども園の園児に「絵本の読み聞かせやクイズ、ダンスや歌、運動会のエイサーを披露したい。」と連絡があり、即日程を調整し実施した。

司会進行や披露する内容も自分たちで考え、幼児向けにアレンジされているのが伝わり、主体的に活動しているのがうかがえた。

園児は知っているダンスの曲が流れると6年生と一緒に次々と舞台に立ち踊り始めた。気づけば3歳から5歳の園児がいきいきと踊っていた。会場全体が一体となり楽しい雰囲気で交流ができた。

交流を終えた後、年長組のあるクラスから「6年生にお礼の手紙を書いて届けたい。」とのつぶやきがあり、早速メッセージを書きその日のうちに小学校へ届けに行った。

6年生への感謝の気持ちを子ども達なりに表現し「伝えたい。」という思いを届けたことで就学への期待の高まりを感じることができる。

4 成果・課題・改善策

① 成果

- ・色水を十分に楽しめる環境作りを行うことで、自分たちで遊びを進めることができるようになり、何度も繰り返し楽しむ中で新たな気付きが生まれ、遊びの継続へ繋がった。
- ・保育教諭が園児のつぶやきに耳を傾け、対話を通じて、その子自身の「やりたいこと」や「伝えたいこと」を共に探求していくことで、活動が発展し遊びこむ姿に繋がった。
- ・試行錯誤を繰り返し、遊びこむ経験をすることで達成感や成就感を味わい、園生活のさまざまな面で「やってみよう。」「もう一回作ってみよう。」「試してみよう。」という思いやつぶやきが増え、主体性が育まれていった。
- ・保育教諭間で保育カンファレンスやカリキュラム・マネジメントを通して、園児の興味や関心を捉えたことで遊びが継続していった。

② 課題・対応策

- ・遊びが更に発展していくよう遊びに必要な素材や環境を保育教諭自身が見通しをもって、子ども達と準備したり環境構成の工夫をしていく必要がある。
- ・幼児が主体的に活動できるよう今後も園児のつぶやきを捉え、その背景にある子どもの発達や興味関心を読み取る力「幼児理解」や「教育・保育の質の向上」に努める。